

VMware View のアップグレード

表示 5.0

表示 Manager 5.0

表示 Composer 2.7

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-000699-00

vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/pubs/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2009–2011 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法により保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

- VMware View アップグレード 5
- 1 VMware View コンポーネントの互換性マトリックス 7
- 2 VMware View のアップグレードの概要 9
- 3 アップグレードのシステム要件 11
 - View Connection Server の要件 11
 - View Connection Server のハードウェア要件 11
 - View Connection Server でサポートされるオペレーティングシステム 12
 - View Connection Server のアップグレード要件 12
 - View Connection Server の仮想化ソフトウェア要件 13
 - View Transfer Server の要件 13
 - View Transfer Server のインストール要件 13
 - View Transfer Server でサポートされるオペレーティングシステム 14
 - View Composer の要件 14
 - View Composer でサポートされるオペレーティングシステム 14
 - View Composer のデータベース要件 14
 - View Administrator の要件 15
 - Windows ベースの View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティングシステム 16
 - ローカル モード デスクトップのハードウェア要件 16
 - View Portal のクライアント ブラウザ要件 18
 - View Agent でサポートされるオペレーティングシステム 18
- 4 VMware View のアップグレードの準備 19
 - アップグレードのための View Connection Server の準備 19
 - アップグレードのための vCenter Server および View Composer の準備 20
- 5 VMware View Server コンポーネントのアップグレード 23
 - レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード 23
 - 別のマシンでの View Connection Server 5.0 へのアップグレード 25
 - View Connection Server をスナップショットに戻した後のレプリカ グループの作成 26
 - View Transfer Server のアップグレード 27
 - 別のマシンでの View Transfer Server 5.0 へのアップグレード 28
 - View Composer のみのアップグレード 29
 - View Composer データベースの手動アップグレード 31
 - SviConfig の実行によるデータベースの手動アップグレード 31
 - 手動データベース スキーマ更新の結果コード 32
 - View Composer データベース アップグレードの失敗のトラブルシューティング 33

- 別のマシンでの View Composer 2.7 および vCenter Server 5.0 へのアップグレード 34
 - View Composer を移行するための移行元マシンの準備 34
 - データ移行ツールを使用した新しいマシンへの移行 36
 - 新しいマシンへの View Composer の手動による移行 38
- 6 ESX/ESXi ホストおよび仮想マシンのアップグレード 41
 - ESX 3.5 ホストとその仮想マシンのアップグレード 41
 - ESX 4.0.x または 4.1.x ホストとその仮想マシンのアップグレード 42
- 7 VMware View のデスクトップとクライアントのアップグレード 45
 - View Agent のアップグレード 45
 - View Composer デスクトップ プールのアップグレード 47
 - View Client のアップグレード 48
 - View Local Mode Client のアップグレード 49
 - View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード 50
- 8 VMware View パッチの適用 53
 - View Connection Server へのパッチの適用 53
 - View Composer へのパッチの適用 54
 - View Agent へのパッチの適用 55
 - View Client へのパッチの適用 56
- 9 VMware View 環境での vSphere コンポーネントの個別アップグレード 57
 - インデックス 59

VMware View アップグレード

『VMware View アップグレード』では、VMware View™ 4.0.x、4.5.x、または 4.6.x から View 5.0 へのアップグレード手順について説明します。View 5.0 パッチ リリースにアップグレードするときも、このガイドを使用できます。

また、vSphere 4.0 または vSphere 4.1 から vSphere 5.0 にアップグレードする場合も、このガイドを読むと VMware View のアップグレードのさまざまな段階で実行する手順がわかります。

VMware View 5.0 パッチ リリースの場合は、このドキュメントの View Manager、View Composer、View Transfer Server、View Agent、および View Client に関する項を参照してください。

対象読者

このガイドは、VMware View 4.0.x、4.5.x または 4.6.x から View 5.0 にアップグレードする必要があるすべての方を対象としています。このガイドに記載されている情報は、仮想マシンのテクノロジーとデータセンターの操作に精通した、経験豊富な Microsoft Windows または Linux システム管理者向けに書かれています。

VMware View コンポーネントの互換性マトリックス

1

大企業ではアップグレードを段階的に実行する必要がある場合が多いため、VMware View コンポーネントは上位互換性と下位互換性が維持されるように設計されています。VMware View 5.0 のコンポーネントには、VMware View 4.0.x、4.5.x、および 4.6.x のほとんどのコンポーネントとの互換性があります。

コンポーネント間には上位互換性と下位互換性がありますが、View Connection Server と View Agent との互換性は、View Connection Server のアップグレード中またはダウングレード中の相互運用性に限定されます。View Agent を管理する View Connection Server のバージョンに合わせて、できるだけ早く View Agent をアップグレードする必要があります。

表 1-1 に、VMware View のコンポーネントの一覧と、バージョンの異なる他のコンポーネントに対するそれぞれの互換性を示します。VMware Infrastructure および vSphere との互換性については、「[View Connection Server の仮想化ソフトウェア要件 \(P. 13\)](#)」。

注意 VMware View 4.0.x の View Portal コンポーネントは変更されており、VMware View 4.5 以降のバージョンの View Portal には、完全な Windows ベースの View Client および完全な Mac ベースの View Client をダウンロードするための Web ページとしての機能しかありません。このため、View Portal は互換性の表では示されていません。Mac ベースの View Client は、View 4.5 以降のコンポーネントのみと互換性があります。

表 1-1. VMware View コンポーネントの互換性マトリックス

	View 4.x コンポーネント				
	Connection Server 4.6.x、4.5.x、または 4.0.x	View Agent 4.6.x、4.5.x、または 4.0.x	View Client 4.6.x、4.5.x、または 4.0.x	Thin Client 4.6.x、4.5.x、または 4.0.x	View Composer 2.6、2.5、または 2.0
View 5.0					
Connection Server 5.0	該当なし	はい	はい	はい	制限付き
Security Server 5.0 (PCoIP および RDP)	はい	はい	はい	はい	該当なし
View Agent 5.0	いいえ	該当なし	はい	はい	いいえ
View Client (Windows) 5.0	はい	はい	該当なし	該当なし	はい
View Client (Mac) 4.6	4.5 および 4.6 のみ	4.5 および 4.6 のみ	該当なし	該当なし	2.5 および 2.6 のみ
View Client with Local Mode 5.0	4.5 および 4.6 のみ	4.5 および 4.6 のみ	4.5 および 4.6 のみ	いいえ	2.5 および 2.6 のみ
Thin Client 4.6	はい	はい	該当なし	該当なし	はい
View Composer 2.7	制限付き	4.5 および 4.6 のみ	該当なし	該当なし	該当なし

View Connection Server と View Composer の両方がアップグレードされるまで、View Composer の操作は機能しません。View Connection Server 5.0 と View Composer 2.0、2.5、または 2.6 がある場合、ユーザーは各自のデスクトップに接続できますが、新しいリンク クローン デスクトップは作成できず、再構成、再分散、および更新の操作は機能しません。また、リンク クローン プールの設定は編集できません。

重要 表で示されているように、View Agent 4.0.x は View Composer 2.7 との互換性がありません。そのため、View 5.0 に固有の機能を使用するプールを作成、再構成、または更新するときは、View 4.0.x のマスタ イメージまたはスナップショットは使用できません。このような View 4.5 から導入された機能としては、システム廃棄可能ディスク (SDD) の使用、Sysprep カスタマイズ仕様の使用、以前にアーカイブした通常のディスクの既存デスクトップへの接続などがあります。

View Composer 2.7 は View Connection Server 4.0.x と制限付きで連携できますが、このセットアップは同じ保守期間内にすべての View Connection Server インスタンスをアップグレードできない場合にのみ使用できます。具体的には、View Composer 2.5 から導入された SysPrep カスタマイズの使用などの機能は、View Agent 4.5 にアップグレードするまでは使用できません。

View Client with Local Mode は View 4.5 から導入された機能であり、その前身である Offline Desktop は試験的機能であったため、View Client with Local Mode には View 4.0.x コンポーネントとの下位互換性はありません。

VMware View のアップグレードの概要

VMware View のエンタープライズ展開のアップグレードには、高度な作業がいくつか含まれます。アップグレードは複数のステージからなるプロセスであり、特定の順序で手順を実行する必要があります。

アップグレード処理は特定の順序で行う必要があります。アップグレードの各ステージを完了してから次のステージに移らないと、データが失われたり、サーバにアクセスできなくなったりします。各アップグレード ステージの中での順序も重要です。

注意 ここでは、メジャー、マイナー、およびメンテナンス リリースの概要について説明します。パッチの情報については、[第 8 章 \[VMware View パッチの適用 \(P. 53\)\]](#) を参照してください。

以下の作業のうち行う必要があるものの数は、展開で使用する VMware View のコンポーネントによって異なります。VMware View 5.0 には View 4.5 より前のリリースでは使用できなかったコンポーネントが含まれるので、一部の作業はアップグレードというよりインストールになる場合があります。

- 1 View Connection Server インスタンスをホストする物理マシンまたは仮想マシンで、バックアップを行い、さまざまな構成とシステム設定を記録します。[「アップグレードのための View Connection Server の準備 \(P. 19\)」](#) .
- 2 View Composer および vCenter Server をホストする物理マシンまたは仮想マシンで、バックアップを行い、スケジュールを設定されている一部のタスクを一時的に停止します。[「アップグレードのための vCenter Server および View Composer の準備 \(P. 20\)」](#) .
- 3 View 4.0.x の Client with Offline Desktop または View 4.5 Client with Local Mode を使用しているエンド ユーザーがいる場合は、View デスクトップをチェックインするようエンド ユーザーに伝えます。
- 4 View Connection Server を既存のホストでアップグレードするか、または新しいマシンに移行します。[「レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード \(P. 23\)」](#) .
- 5 View 4.0.x からアップグレードする場合は、以前はログにのみ記録されていた一部の View Connection Server イベントを表示するために View Administrator 5.0 が使用するイベント データベースをインストールして構成します。『VMware View 5.0 インストール ガイド』を参照してください。

View 4.5 からアップグレードする場合は、このデータベースはおそらく既にインストールされています。View 4.5 データベース スキーマをアップグレードする必要はありません。View 5.0 ではデータベース スキーマの変更は不要です。

- 6 View Client with Local Mode コンポーネントの場合は、1 つ以上の View Transfer Server インスタンスをアップグレードまたは構成します。

現在のバージョン	アクション
View 4.0.x	Transfer Server インスタンスをインストールします。『VMware View 5.0 インストール ガイド』を参照してください。
View 4.5 および 4.6	Transfer Server インスタンスをアップグレードします。 View Transfer Serverのアップグレード(P.27) 。

このサーバは、エンドユーザーがクライアントシステムでローカルに View デスクトップをチェックアウトして実行するために必要なデータを転送します。

View Client with Local Mode 機能は、以前のリリースでは View Offline Desktop と呼ばれる実験的な機能でしたが、現在は完全にサポートされています。

- 7 既存ホストの View Composer をアップグレードするか、または vSphere 5.0 へのアップグレードも行う場合は新しいマシンに移行します。[「別のマシンでの View Composer 2.7 および vCenter Server 5.0 へのアップグレード \(P.34\)」](#)。
- 8 デスクトップソースとして、プール内のフルクローン デスクトップとして、および手動プール内の個別のデスクトップとして、それぞれ使用されている物理マシンまたは仮想マシン上で実行する VMware View ソフトウェアをアップグレードします。[「View Agent のアップグレード \(P.45\)」](#)。
- 9 新しくアップグレードした仮想デスクトップソースを使用して、View デスクトップのアップグレードされたプールを作成します。[「View Composer デスクトップ プールのアップグレード \(P.47\)」](#)。
- 10 エンドユーザーのクライアントデバイスで実行する VMware View ソフトウェアをアップグレードします。[「View Client のアップグレード \(P.48\)」](#) および [「View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード \(P.50\)」](#) を参照してください。

一部のコマンドは複数のステージを同時にアップグレードできるので、各ステージでの元に戻すことができない変更についてよく理解してから、本稼働環境をアップグレードすることをお勧めします。

アップグレードのシステム要件

VMware View の展開に含めるホストおよび仮想マシンは、特定のハードウェア要件およびオペレーティングシステム要件を満たしている必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View Connection Server の要件 \(P. 11\)](#)
- [View Transfer Server の要件 \(P. 13\)](#)
- [View Composer の要件 \(P. 14\)](#)
- [View Administrator の要件 \(P. 15\)](#)
- [Windows ベースの View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティングシステム \(P. 16\)](#)
- [ローカル モード デスクトップのハードウェア要件 \(P. 16\)](#)
- [View Portal のクライアント ブラウザ要件 \(P. 18\)](#)
- [View Agent でサポートされるオペレーティングシステム \(P. 18\)](#)

View Connection Server の要件

View Connection Server はクライアント接続のプロローカーとして機能し、受信したユーザーの要求を認証した後、適切な View デスクトップにダイレクトします。View Connection Server には、特定のハードウェア要件、オペレーティングシステム要件、インストール要件、およびサポート ソフトウェア要件があります。

View Connection Server のハードウェア要件

View Connection Server は、特定のハードウェア要件を満たす専用の物理マシンまたは仮想マシンにインストールする必要があります。

表 3-1. View Connection Server のハードウェア要件

ハードウェア コンポーネント	必須	推奨
プロセッサ	Pentium IV 2.0GHz 以上のプロセッサ	4 CPU
ネットワーク	1 つ以上の 10/100 Mbps ネットワーク インターフェイス カード (NIC)	1 Gbps の NIC

表 3-1. View Connection Server のハードウェア要件 (続き)

ハードウェア コンポーネント	必須	推奨
メモリ Windows Server 2008 64 ビット	4GB 以上の RAM	50 以上の View デスクトップを展開する場合は 10GB 以上の RAM
メモリ Windows Server 2003 32 ビット R2	2 GB 以上の RAM	50 以上の View デスクトップを展開する場合は 6 GB RAM、物理アドレス拡張 (PAE) を有効にする Microsoft のサポート技術情報 (KB) の記事 http://support.microsoft.com/kb/283037 を参照してください。

上記の要件は、高可用性または外部アクセスを目的にインストールするレプリカ、セキュリティ サーバ、View Connection Server インスタンスにも適用されます。

重要 View Connection Server をホストする物理マシンまたは仮想マシンは、固定 IP アドレスを使用する必要があります。

View Connection Server でサポートされるオペレーティング システム

View Connection Server はサポートされるオペレーティング システムにインストールする必要があります。

表 3-2 は、View Connection Server に対してサポートされるオペレーティング システムの一覧です。

これらのオペレーティング システムは、View Connection Server のすべてのインストール タイプ (標準、レプリカ、セキュリティ サーバのインストール) をサポートします。

表 3-2. View Connection Server のオペレーティング システムのサポート

オペレーティング システム	バージョン	エディション	サービス パック
Windows Server 2008 R2	64 ビット	Standard Enterprise	なし、または SP1
Windows Server 2003 R2	32 ビット	Standard Enterprise	SP2

PCoIP Secure Gateway のシステム要件

セキュリティ サーバは Windows Server 2003 物理または仮想マシンにインストールできますが、PCoIP Secure Gateway コンポーネントを使用したい場合は、オペレーティング システムが 64 ビットの Windows Server 2008 R2 である必要があります。PCoIP Secure Gateway コンポーネントによって、PCoIP ディスプレイ プロトコルを採用している View Client は、企業のファイアウォールの外側からの VPN を使用せずにセキュリティ サーバを使用できます。

64 ビットの Windows Server 2008 R2 ホスト上で実行するセキュリティ サーバと、Windows Server 2003 または 2003 R2 上で実行する Connection Server のインスタンスとをペアにすることができます。クライアントはこのペアでも PCoIP Secure Gateway を使用できます。

重要 複数のセキュリティ サーバの前にロード バランサを使用する場合は、すべてのセキュリティ サーバが同じオペレーティング システムを使用することを確認してください。

View Connection Server のアップグレード要件

View Connection Server のアップグレード処理には、特定の要件および制限事項があります。

- View Connection Server には View 5.0 の有効なライセンス キーが必要です。VMware View 4.0 のリリースの時点では、VMware View のライセンス キーは 25 文字のキーです。

- View Connection Server の新しいバージョンのインストールに使用するドメイン ユーザー アカウントは、View Connection Server ホスト上での管理者権限を持っている必要があります。View Connection Server の管理者は、vCenter Server の管理者認証情報を持っている必要があります。

追加の物理マシンまたは仮想マシン上で View Connection Server インスタンスの新規インストールを実行する計画がある場合は、『VMware View インストール ガイド』でインストール要件の完全なリストを参照してください。

View Connection Server の仮想化ソフトウェア要件

View Connection Server が正常に機能するためには、VMware 仮想化ソフトウェアが必要です。

- vSphere を使用している場合は、サポートされている次のいずれかのバージョンを使用する必要があります。
 - vSphere 4.0 Update 3 以降
 - vSphere 4.1 Update 1 以降
 - vSphere 5.0 以降
- ESX および ESXi ホストの両方がサポートされます。

View Transfer Server の要件

View Transfer Server はオプションの View Manager コンポーネントであり、ローカル モードで実行するデスクトップのチェック イン、チェックアウト、およびレプリケーションをサポートします。View Transfer Server には、特定のインストール要件、オペレーティングシステム要件、およびストレージ要件があります。

View Transfer Server のインストール要件

View Transfer Server は、特定の要件を満たす仮想マシンに Windows アプリケーションとしてインストールする必要があります。

View Transfer Server をホストする仮想マシンは、以下のネットワーク接続に関するいくつかの要件を満たしている必要があります。

- 管理対象のローカル デスクトップと同じ vCenter Server インスタンスによって管理されている必要があります。
- ドメインの一部でなくてもかまいません。
- 静的 IP アドレスを使用している必要があります。



注意 LSI Logic Parallel SCSI コントローラを使用して Transfer Server をホストするように仮想マシンを構成する必要があります。SAS や VMware 準仮想化コントローラは使用できません。

Windows Server 2008 仮想マシンでは、デフォルトで LSI Logic SAS コントローラが選択されています。オペレーティングシステムをインストールする前に、この選択を LSI Logic パラレルのコントローラに変更する必要があります。

View Transfer Server ソフトウェアは、View Connect Server などの他の View Manager ソフトウェアがインストールされている仮想マシンにインストールすることはできません。

View Transfer Server インスタンスを複数インストールすることで、可用性とスケーラビリティを高めることができます。

View Transfer Server でサポートされるオペレーティング システム

View Transfer Server は、少なくとも最低限必要な量の RAM を搭載したサポート対象オペレーティング システムにインストールする必要があります。

表 3-3. View Transfer Server のオペレーティング システム サポート

オペレーティング システム	バージョン	エディション	サービス パック	最小 RAM
Windows Server 2008 R2	64 ビット	Standard Enterprise	なし、または SP1	4GB
Windows Server 2003 R2	32 ビット	Standard Enterprise	SP2	2 GB

重要 View Transfer Server をホストする仮想マシンごとに 2 つの仮想 CPU を構成します。

View Composer の要件

View Manager では、中央で管理される 1 つの基本イメージから複数のリンク クローン デスクトップを展開するために View Composer を使用します。View Composer には特定のインストール要件およびストレージ要件があります。

View Composer でサポートされるオペレーティング システム

View Composer は、64 ビットのオペレーティング システムをサポートしますが、特定の要件と制限事項があります。View Composer を、vCenter Server と同じ物理コンピュータまたは仮想マシンにインストールする必要があります。

表 3-4 は、View Composer に対してサポートされるオペレーティング システムの一覧です。

表 3-4. View Composer の 64 ビット オペレーティング システムのサポート

vCenter Server のバージョン	オペレーティング システム	エディション	サービス パック
4.0 Update 3 以降	Windows Server 2008 R2	Standard または Enterprise	なし、または SP1
4.1 Update 1 以降	Windows Server 2008 R2	Standard または Enterprise	なし、または SP1
5.0 以降	Windows Server 2008 R2	Standard または Enterprise	なし、または SP1

View Composer のデータベース要件

View Composer には、データを格納するための SQL データベースが必要です。View Composer データベースは、vCenter Server コンピュータ上に存在するか、vCenter Server コンピュータから利用できる必要があります。

vCenter Server 用のデータベース サーバがすでに存在する場合、表 3-5 たえば、vCenter Server とともに提供される Microsoft SQL Server 2005 または 2008 Express インスタンスを View Composer で使用できます。データベース サーバがまだない場合は、インストールする必要があります。

View Composer は、vCenter Server がサポートするデータベース サーバの一部をサポートします。View Composer でサポートされていないデータベース サーバを vCenter Server ですでに使用している場合は、vCenter Server 用にはそのデータベース サーバを引き続き使用し、View Composer および View Manager データベース イベント用に別のデータベース サーバをインストールします。

重要 vCenter Server と同じ SQL Server インスタンスに View Composer データベースを作成する場合は、vCenter Server データベースを上書きしないでください。

表 3-5 は、サポートされているデータベース サーバおよびデータベース バージョンの一覧です。vCenter Server でサポートされているデータベース バージョンの完全な一覧については、VMware vSphere ドキュメント Web サイトで『VMware vSphere 互換性マトリックス』（英語版）を参照してください。

表 3-5. View Composer でサポートされるデータベース サーバ

データベース	vCenter Server 5.0 以降	vCenter Server 4.1 U1 以降	vCenter Server 4.0 U3 以降
Microsoft SQL Server 2005 Express	×	はい	はい
Microsoft SQL Server 2005 SP3 以降、Standard および Enterprise (32 ビットおよび 64 ビット)	はい	はい	はい
Microsoft SQL Server 2008 R2 Express	はい	×	×
Microsoft SQL Server 2008 SP1 以降、Standard および Enterprise (32 ビットおよび 64 ビット)	はい	はい	はい
Oracle 10g Release 2	はい	はい	はい
Oracle 11g Release 2、 Oracle 11.2.0.1 Patch 5 適用済み	はい	はい	はい

注意 Oracle 11g R2 データベースを使用する場合は、Oracle 11.2.0.1 Patch 5 をインストールする必要があります。このパッチ要件は、32 ビットと 64 ビットの両バージョンに適用されます。

View Administrator の要件

管理者は、View Administrator を使って View Connection Server の設定、デスクトップの展開と管理、ユーザー認証の制御、システム イベントの開始と調査、および分析作業を実行します。View Administrator を実行するクライアントシステムは、特定の要件を満たす必要があります。

View Administrator は Web ベースのアプリケーションであり、View Connection Server をインストールすると一緒にインストールされます。View Administrator は次の Web ブラウザでアクセスして使用できます。

- Internet Explorer 7
- Internet Explorer 8
- Internet Explorer 9
- Firefox 3.0
- Firefox 3.5

View Administrator を Web ブラウザで使用するには、Adobe Flash Player 10 以降がインストールされている必要があります。また、Adobe Flash Player をインストールできるように、クライアントシステムがインターネットにアクセスできる必要があります。

View Administrator でテキストが正しく表示されるためには、Microsoft 固有のフォントが必要です。Web ブラウザを Linux、UNIX、Mac OS などの Windows 以外の OS で実行する場合は、Microsoft 固有のフォントがコンピュータにインストールされていることを確認してください。

現在、Microsoft の Web サイトでは Microsoft フォントは配布されていませんが、独立系の Web サイトからダウンロードできます。

Windows ベースの View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティング システム

ユーザーは View Client を実行して View デスクトップに接続します。View Client または View Client with Local Mode は、サポートされるオペレーティング システムにインストールする必要があります。

表 3-6 は、View Client でサポートされる Microsoft Windows オペレーティング システムの一覧です。View Client for the Mac や View Client for iPad などその他の View Client でサポートされているオペレーティング システムについては、特定のクライアントに対応するドキュメントを参照してください。

https://www.vmware.com/support/viewclients/doc/viewclients_pubs.html をご覧ください。

表 3-6. View Client でサポートされる Windows ベース クライアントのオペレーティング システム

オペレーティング システム	バージョン	エディション	サービス パック
Windows 7	32 ビットおよび 64 ビット	Home、Enterprise、Professional、Ultimate	なし、および SP1
Windows XP	32 ビット	Home および Professional	SP3
Windows Vista	32 ビット	Home、Business、Enterprise、Ultimate	SP1、SP2

重要 View Client with Local Mode は、Windows システムだけで、物理コンピュータにおいてのみサポートされません。さらに、この機能を使用するには、VMware ライセンスに View Client with Local Mode が含まれている必要があります。

View Client with Local Mode は完全にサポートされている機能であり、以前のリリースでは View Client with Offline Desktop という名前の試験的機能でした。

注意 VMware パートナーから、VMware View 展開用のシンクライアント デバイスが提供されています。それぞれのシンクライアント デバイスで利用可能な機能および Linux オペレーティング システムは、ベンダーおよびモデルと、企業で使用するを選択した構成によって決まります。シンクライアント デバイスのベンダーおよびモデルの詳細については、VMware Web サイトから入手可能な『シンクライアント互換性ガイド』（英語版）を参照してください。

ローカル モード デスクトップのハードウェア要件

View デスクトップをローカル コンピュータで実行するためにチェックアウトするときは、クライアント コンピュータのハードウェアが、ローカル システムと、その上で実行する仮想マシンの両方をサポートしている必要があります。

仮想ハードウェア

仮想ハードウェア バージョン 8 を使用する View デスクトップのチェックアウトはサポートされていません。vSphere 5 を使用して、ローカル モード デスクトップのソースになる仮想マシンを作成する場合は、仮想ハードウェア バージョン 7 を使用する仮想マシンを作成するようにしてください。

PC のハードウェア

表 3-7 では、View デスクトップの各種オペレーティング システムのハードウェア要件について説明します。

表 3-7. プロセッサの要件

クライアント コンピュータの要件	説明
PC	標準 x86 または x86 64 ビット互換
CPU の数	マルチプロセッサ システムをサポート

表 3-7. プロセッサの要件 (続き)

クライアント コンピュータの要件	説明
CPU の速度	Windows XP ローカル デスクトップの場合は 1.3 GHz 以上、推奨は 1.6 GHz Windows 7 デスクトップの場合で 1.3GHz 以上、Aero 効果を使用するには 2.0GHz 以上
Intel プロセッサ	Pentium 4、Pentium M (PAE 対応)、Core、Core 2、Core i3、Core i5、および Core i7 プロセッサ Windows 7 Aero の場合: Intel Dual Core
AMD プロセッサ	Athlon、Athlon MP、Athlon XP、Athlon 64、Athlon X2、Duron、Opteron、Turion X2、Turion 64、Sempron、Phenom、および Phenom II Windows 7 Aero の場合: Althon 4200+ 以上
64 ビット オペレーティング システム	Intel Pentium 4 および Core 2、および EM64T/Intel 仮想化技術搭載の Core i7 プロセッサ ほとんどの AMD64 プロセッサ (初期改定 C Opteron プロセッサを除く)
Windows 7 Aero の GPU	nVidia GeForce 8800GT 以上 ATI Radeon HD 2600 以上

ディスク領域

View デスクトップでオペレーティング システムのデフォルト セットアップを使用する場合、実際に必要なディスク領域はそのオペレーティング システムおよびアプリケーションを物理コンピュータにインストールして実行するために必要なディスク領域とほぼ同じになります。

たとえば、Microsoft では 32 ビットの Windows 7 オペレーティング システムを実行するマシンのハード ディスク領域として 16GB を推奨しています。32 ビットの Windows 7 仮想マシンに 16GB 仮想ハード ディスクを構成した場合、ローカル デスクトップをチェックアウトするときには、実際に使用されるディスク領域のみがダウンロードされます。16GB が割り当てられているデスクトップの場合、実際にダウンロードされるサイズは 7GB です。

16 GB のハード ディスクを構成した場合、デスクトップがダウンロードされた後に、使用されるディスク領域が最大で 16 GB まで大きくなる可能性があります。スナップショットはレプリケーション中に作成されるため、それに相当するディスク領域がさらに必要です。たとえば、ローカル デスクトップに 7GB のディスク領域が使用されている場合、スナップショットはクライアント コンピュータ上でさらに 7GB を消費します。

IDE ハード ディスク ドライブおよび SCSI ハード ディスク ドライブがサポートされています。

メモリ

クライアント コンピュータでホスト オペレーティング システムを実行するための十分なメモリに加えて、View デスクトップのオペレーティング システムに必要なメモリ、およびクライアント コンピュータと View デスクトップで実行するアプリケーションに必要なメモリが必要です。VMware では、Windows XP および Windows Vista には 2GB 以上を、また Windows 7 には 3GB 以上をお勧めします。メモリ要件については、お使いのゲスト オペレーティング システムとアプリケーションのマニュアルを参照してください。

1 台のコンピュータで実行するすべての仮想マシンに割り当てることができるメモリの総容量は、コンピュータの RAM 容量によってのみ制限されます。32 ビット クライアント コンピュータの View デスクトップごとの最大メモリ容量は 8GB であり、64 ビットの場合は 32GB です。

ディスプレイ

32 ビットのディスプレイ アダプタをお勧めします。3DMark '06 などの 3D ベンチマークは、一部のグラフィック ハードウェアで Windows Vista や Windows 7 仮想マシンを実行している場合、正確にレンダリングされない、あるいはまったくレンダリングされないことがあります。

720p 以上でビデオを再生するには、マルチプロセッサシステムが必要です。

Windows 7 Aero をサポートするための CPU および GPU の要件については、表 3-7 を参照してください。

View Portal のクライアント ブラウザ要件

クライアントシステムからは、View Connection Server インスタンスを参照し、View Portal を使用して Mac ベースの View Client、Windows ベースの View Client、または View Client with Local Mode をインストールできます。Internet Explorer を使用している場合、View Client の新しいバージョンをダウンロードできるようになると、View Portal でそのことが示されます。

View Portal を使用するには、次のいずれかの Web ブラウザが必要です。

- Internet Explorer 7
- Internet Explorer 8
- Internet Explorer 9
- Firefox 3.0
- Firefox 3.5

Internet Explorer を使用していて、View Client がすでにインストールされている場合、View Connection Server から使用できるバージョンが、クライアント デバイスにインストールされているバージョンより新しいときは、アップグレードを選択できます。クライアント デバイスと同じバージョンの場合は、View Portal はローカルシステムにインストールされている View Client を起動します。

注意 View Portal は Linux をサポートしていません。Linux のネイティブクライアントは、認定された VMware パートナーからのみ利用できます。

View Agent でサポートされるオペレーティング システム

View Agent コンポーネントは、セッション管理、シングル サインオン、およびデバイスのリダイレクトに役立ちます。View Manager によって管理されるすべての仮想マシン、物理システム、およびターミナル サーバに、View Agent をインストールする必要があります。

表 3-8 は、View Agent に対してサポートされるオペレーティング システムの一覧です。

表 3-8. View Agent のオペレーティング システムのサポート

ゲスト OS	バージョン	エディション	サービス パック
Windows 7	64 ビット、32 ビット	Enterprise および Professional	なし、および SP1
Windows Vista	32 ビット	Business および Enterprise	SP1 および SP2
Windows XP	32 ビット	Professional	SP3
Windows 2008 R2 Terminal Server	64 ビット	Standard	なし、および SP1
Windows 2008 Terminal Server	64 ビット	Standard	SP2
Windows 2003 R2 Terminal Server	32 ビット	Standard	SP2
Windows 2003 Terminal Server	32 ビット	Standard	SP2

View 個人設定管理機能を使用するには、View Agent を Windows 7、Windows Vista、または Windows XP 仮想マシンにインストールする必要があります。View 個人設定管理 は物理コンピュータや Microsoft Terminal Server では動作しません。

重要 仮想マシンで Windows 7 を使用する場合、そのホストは ESX/ESXi 4.0 Update 3 以降、ESX/ESXi 4.1 Update 1 以降、または ESXi 5.0 以降でなければなりません。

VMware View のアップグレードの準備

アップグレード処理を開始する前に、新しいバージョンのシステム要件の確認、データベースのバックアップ、サーバコンポーネントをホストしている仮想マシンのスナップショットの作成、および構成設定の記録を行う必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [アップグレードのための View Connection Server の準備 \(P. 19\)](#)
- [アップグレードのための vCenter Server および View Composer の準備 \(P. 20\)](#)

アップグレードのための View Connection Server の準備

View Connection Server をアップグレードする場合、または View Connection Server が依存する vSphere コンポーネントのいずれかをアップグレードする場合は、正常にアップグレードできるよう事前にいくつかの作業を実行する必要があります。

- 現在の View Connection Server インスタンスがインストールされている仮想マシンまたは物理マシンが、View 5.0 のシステム要件を満たしていることを確認します。

詳細については、[「View Connection Server の要件 \(P. 11\)」](#)を参照してください。

- View Connection Server が仮想マシンにインストールされている場合は、その仮想マシンのスナップショットを作成します。View Connection Server インスタンスのレプリカ グループがある場合は、1 つの View Connection Server インスタンスのスナップショットだけを作成します。

スナップショットの作成手順については、vSphere Client のオンライン ヘルプを参照してください。このスナップショットに戻す必要があり、レプリカ グループ内に他にも View Connection Server インスタンスがある場合は、マスタをスナップショットに戻す前に、これらのインスタンスをアンインストールする必要があります。戻した後で、レプリカ インスタンスを再インストールして、その戻したインスタンスを参照します。

このスナップショットに「アップグレード準備作業」などのラベルを付けます。

- View Administrator を開き、すべてのグローバル設定およびデスクトップとプールの設定を記録します。たとえば、該当する設定のスクリーンショットを撮ります。レプリカ グループ内に View Connection Server インスタンスが複数存在する場合は、1 つのインスタンスの設定を記録するだけでかまいません。

バージョン	場所
View 4.0.x	[Desktops and Pools (デスクトップとプール)]ビューおよび [Configuration (構成)]ビューの [Global Settings (グローバル設定)]セクション
View 4.5 または 4.6	[Inventory (インベントリ)]ツリーの [Pools (プール)]セクションと [Desktops (デスクトップ)]セクション、および [View Configuration (View の構成)]の [Global Settings (グローバル設定)]セクション

- `vdmexport.exe` ユーティリティを使用して View 4.0.x、4.5.x、または 4.6.x の LDAP データベースをバックアップします。

手順については、次のいずれかの、現在使用しているバージョンの VMware View の管理ガイドを参照してください。『View Manager 4 管理ガイド』、『VMware View 4.5 管理者ガイド』、または『VMware View 4.6 管理者ガイド』。レプリカ グループ内に View Connection Server インスタンスが複数存在する場合は、1 つのインスタンスからデータをエクスポートするだけでかまいません。

- View Connection Server がインストールされているマシンの IP アドレスおよびシステム名を記録します。
- View Connection Server 上の View データベースに対して実行されるパッチ ファイルまたはスクリプトが社内で作成されているかどうかを確認し、作成されている場合はその名前と場所を記録します。
- View Connection Server にロード バランサを使用する場合は、ロード バランサの構成設定を記録します。

アップグレードのための vCenter Server および View Composer の準備

vCenter Server と View Composer は同じ仮想マシンまたは物理マシンにインストールされるため、一部の準備作業は両方に当てはまります。

vSphere を含むアップグレードの準備

View Composer 2.7 を備えた VMware View 5.0 へのアップグレードに加えて、vCenter Server 5.0 にもアップグレードする場合は、『vSphere アップグレード ガイド』を参照して、次の作業を以下の順序で実行する必要があります。

- 1 仮想マシンまたは物理マシンが vCenter Server 5.0 のシステム要件を満たしていることを確認します。
たとえば、vCenter Server 5.0 は 2 つの CPU を必要とし、64 ビットオペレーティングシステムで実行する必要があります。View Composer 2.0.x は 32 ビットオペレーティングシステムでのみサポートされていたので、vSphere 5.0 にアップグレードするということは、View Composer を別のマシンにアップグレードする必要があることを意味する場合があります。
- 2 vCenter Server が仮想マシンにインストールされている場合は、その仮想マシンのスナップショットを作成します。
スナップショットの作成手順については、vSphere Client のオンライン ヘルプを参照してください。
- 3 コンピュータ名が 15 文字より長い場合は、15 文字以下の短い名前に変更します。
この名前は、最初に 32 ビットの vCenter Server 4.0 ホストで使用し、その後 64 ビットの vCenter Server 5.0 ホストに移行するときに使用します。同じ IP アドレスを使用できます。
- 4 vCenter Server データベースと View Composer データベースをバックアップします。
データベースのバックアップ方法については、データベース ベンダーから提供されるマニュアルを参照してください。
- 5 データベース サーバに vCenter Server 5.0 との互換性があることを確認します。
たとえば、データベース サーバが Oracle 9i の場合、Oracle 10g または 11g にアップグレードする必要があります。vCenter Server を 32 ビット オペレーティングシステムから 64 ビット オペレーティングシステムに移行する予定で、データベースを同じシステムに置く場合は、データベースが 64 ビット オペレーティングシステムでサポートされていることを確認してください。
- 6 データベースに View Composer 2.7 との互換性があることを確認します。
View Composer は、vCenter Server がサポートするデータベース サーバのサブセットをサポートします。View Composer によってサポートされないデータベース サーバを vCenter Server ですでに使用している場合は、vCenter Server 用にはそのデータベース サーバを引き続き使用し、View Composer および View Manager のデータベース イベントに使用する別のデータベース サーバをインストールします。
- 7 SSL 証明書を含むフォルダをコピーします。
このフォルダは %ALLUSERSPROFILE%\Application Data\VMware\VMware VirtualCenter にあります。
- 8 vCenter Server がインストールされているマシンの IP アドレスおよびシステム名を記録します。

- 9 すべてのリンク クローン デスクトップ プールについて、新しい仮想マシンのプロビジョニングを無効にします。
View Composer とそのデスクトップ プールとは異なる保守期間にアップグレードされる場合があるため、両方のコンポーネントがアップグレードされるまでプロビジョニングを延期する必要があります。
- 10 いずれかのデスクトップ プールがログオフ時に OS ディスクを更新するように設定されている場合は、そのプールの [Desktop/Pools (デスクトップ/プール)] 設定を編集して、[Refresh OS disk on logoff (ログオフ時に OS ディスクを更新)] を [Never (更新しない)] に設定します。
この設定を行うと、まだ View Agent 5.0 にアップグレードされていないデスクトップの更新を新しくアップグレードされた View Composer が試みても、エラーが発生しません。
- 11 いずれかのデスクトップ プールに更新または再構成の操作のスケジュールが設定されている場合は、それらの操作をキャンセルします。

View Composer のみのアップグレードの準備

View Composer のみをアップグレードして、VirtualCenter Server をアップグレードしない場合は、次の作業を実行する必要があります。

- 1 View Composer が仮想マシンにインストールされている場合は、その仮想マシンのスナップショットを作成します。
スナップショットの作成手順については、vSphere Client のオンライン ヘルプを参照してください。
- 2 vCenter Server データベースと View Composer データベースをバックアップします。
データベースのバックアップ方法については、データベース ベンダーから提供されるマニュアルを参照してください。
- 3 データベースに View Composer 2.7 との互換性があることを確認します。
View Composer は、vCenter Server がサポートするデータベース サーバのサブセットをサポートします。View Composer によってサポートされないデータベース サーバを vCenter Server ですでに使用している場合は、vCenter Server 用にはそのデータベース サーバを引き続き使用し、View Composer および View Manager のデータベース イベントに使用する別のデータベース サーバをインストールします。
- 4 SSL 証明書を含むフォルダをコピーします。
このフォルダは %ALLUSERSPROFILE%\Application Data\VMware\VMware VirtualCenter にあります。
- 5 vCenter Server がインストールされているマシンの IP アドレスおよびシステム名を記録します。
- 6 すべてのリンク クローン デスクトップ プールについて、新しい仮想マシンのプロビジョニングを無効にします。
View Composer とそのデスクトップ プールとは異なる保守期間にアップグレードされる場合があるため、両方のコンポーネントがアップグレードされるまでプロビジョニングを延期する必要があります。
- 7 いずれかのデスクトップ プールがログオフ時に OS ディスクを更新するように設定されている場合は、そのプールの [Desktop/Pools (デスクトップ/プール)] 設定を編集して、[Refresh OS disk on logoff (ログオフ時に OS ディスクを更新)] を [Never (更新しない)] に設定します。
この設定を行うと、まだ View Agent 5.0 にアップグレードされていないデスクトップの更新を新しくアップグレードされた View Composer が試みても、エラーが発生しません。
- 8 いずれかのデスクトップ プールに更新または再構成の操作のスケジュールが設定されている場合は、それらの操作をキャンセルします。

VMware View Server コンポーネントのアップグレード

5

アップグレードする必要があるサーバー コンポーネントとしては、View Connection Server、View Client、および View Agent があります。使用しているオプション コンポーネントによっては、View Composer のアップグレードも必要になる場合があります。View Client with Local Mode を使用する場合は、View Transfer Server インスタンスもインストールまたはアップグレードする必要があります。

View の展開のサイズによっては、アップグレード処理を複数の保守期間にわたって段階的に実行する場合があります。

VMware View 5.0 のパッチ リリースについては、[第 8 章 \[VMware View パッチの適用 \(P. 53\)\]](#) を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード \(P. 23\)](#)
- [View Transfer Server のアップグレード \(P. 27\)](#)
- [View Composer のみのアップグレード \(P. 29\)](#)
- [別のマシンでの View Composer 2.7 および vCenter Server 5.0 へのアップグレード \(P. 34\)](#)

レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード

アップグレード作業を複数の保守期間に分散すると、処理の各段階で成功を確認したり、問題を発見したりすることができます。最初の保守期間には、View LDAP データベースを複製するグループ内のすべての View Connection Server インスタンスをアップグレードします。

VMware View 5.0 の新しい機能を使用するには、VMware View 5.0 にアップグレードする必要があります。View 5.0 に含まれる新機能の一覧については、リリース ノートを参照してください。

注意 この手順では、インプレース アップグレードについて説明します。異なるマシンに移行するには、[「別のマシンでの View Connection Server 5.0 へのアップグレード \(P. 25\)」](#) を参照してください。

開始する前に

- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。このアップグレードにかかる時間は、グループ内の View Connection Server インスタンスの数によって決まります。1 インスタンスにつき 15 ~ 30 分を予定してください。
- [「アップグレードのための View Connection Server の準備 \(P. 19\)」](#) .
- VMware View の新しいバージョンのライセンスがあることを確認します。VMware View 4.0 以降のリリースでは、新しいライセンス モデルが使用されています。ライセンス キーは 25 文字で構成されます。アップグレードの購入が不要だった場合でも、View 4.0 以降のライセンス キーを使用する必要があります。
- インストーラとアップグレードを実行する際に使用するホスト上に、管理権限を持つドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。

- View 4.0.x、4.5.x、または 4.6.x からアップグレードする場合で、**vdmexport.exe** ユーティリティについて詳しくない場合は、『View Manager 4 管理ガイド』、『VMware View 4.5 管理者ガイド』、または『VMware View 4.6 管理者ガイド』に記載されているこのユーティリティの使用手順を印刷してください。このユーティリティは、アップグレード手順の一環として View LDAP データベースをバックアップするために使用します。
- セキュリティ サーバを使用する場合は、インストーラを実行して新しいセキュリティ サーバペアリングメカニズムを使用するセキュリティ サーバを作成する方法をよく理解してください。『VMware View 5.0 インストール ガイド』を参照してください。
- View Connection Server 上の GPO テンプレートの場所を忘れてしまった場合は、『View Manager 管理ガイド』（View 4.0.x の場合）、『VMware View 4.5 管理者ガイド』、または『VMware View 4.6 管理者ガイド』のグループポリシー オブジェクトに関する項を参照してください。アップグレード手順の一環として、GPO テンプレートをコピーする必要があります。

既存のロード バランサの構成を変更する必要はありません。

手順

- 1 グループ内のすべての View Connection Server インスタンス上で、VMware View Connection Server というサービスを停止します。

同じグループ内の他のインスタンスが実行されている間に View Connection Server インスタンスをアップグレードすると、View LDAP データベースが破損するおそれがあります。

VMwareVDMDS サービスは停止しないでください。View LDAP データベースをアップグレードできるように、VMwareVDMDS サービスが実行されている必要があります。
- 2 グループ内のいずれかの View Connection Server インスタンスのホストで、VMware View 5.0 Connection Server のインストーラを実行します。

旧バージョンがすでにインストールされているかどうかはインストーラによって判別され、アップグレードが実行されます。新規インストールの場合は、インストーラに表示されるインストール オプションの数が少なくなります。

View LDAP もアップグレードされます。
- 3 インストーラ ウィザードが閉じた後、VMware View Connection Server サービスが再起動したことを確認します。
- 4 View Connection Server にログインできることを確認し、View Administrator で [About (バージョン情報)] をクリックして、新しいバージョンが使用されていることを確認します。
- 5 [View Configuration (View の構成)] - [Product Licensing and Usage (製品のライセンスと使用状況)] に移動し、[Edit License (ライセンスの編集)] をクリックして View Manager のライセンス キーを入力し、[OK] をクリックします。
- 6 View デスクトップにログインできることを確認します。
- 7 再度 View Connection Server サービスを停止します。
- 8 カスタマイズするすべてのデスクトップについて、**手順 1** から **手順 7** までを繰り返して、グループ内の各 View Connection Server インスタンスをアップグレードします。
- 9 グループ内のすべてのサーバがアップグレードされた後、すべてのサーバ上で View Connection Server サービスを開始します。
- 10 **vdmexport.exe** ユーティリティを使用して、新しくアップグレードされた View LDAP データベースをバックアップします。

レプリカ グループ内に View Connection Server インスタンスが複数存在する場合は、1 つのインスタンスからデータをエクスポートするだけでかまいません。
- 11 アップグレードした View Connection Server インスタンスのいずれかで、GPO テンプレートをコピーし、Active Directory にロードします。

- 12 カスタマイズするすべてのデスクトップについて、[手順 1](#) から [手順 7](#) を繰り返して、各セキュリティ サーバをアップグレードします。

このリリースの VMware View にはセキュリティ サーバ ペ어링 メカニズムが含まれています。

- 13 セキュリティ サーバを使用する場合は、View Administrator で [View Configuration (View の構成)] - [Servers (サーバ)] に移動し、重複しているセキュリティ サーバを一覧から削除します。

新しい自動化されたセキュリティ サーバ ペ어링 メカニズムでは、完全なシステム名が、セキュリティ サーバが最初に作成されたときに割り当てられた名前と一致しない場合、[Security Servers (セキュリティ サーバ)] の一覧に重複したエントリが作成される場合があります。

View Connection Server インスタンスはアップグレードされます。既存の View 4.0.x、View 4.5.x、または View 4.6.x View Client、および View 4.0.x、4.5.x、または 4.6.x View Agent がインストールされているデスクトップソースとの下位互換性が確保されています。

View 4.0.x の展開では個別のデスクトップと呼ばれた View デスクトップは、View 5.0 では手動プールに追加されます。個別のデスクトップの場合、手動プールにはデスクトップが 1 つだけ含まれます。

次に進む前に

1 つ以上の View Connection Server インスタンスでアップグレードが失敗する場合は、[\[View Connection Server をスナップショットに戻した後のレプリカ グループの作成 \(P. 26\)\]](#)。

View 4.0.x 以前からアップグレードしていて、アップグレードが成功した場合は、イベント データベースをインストールして構成します。方法については、[\[VMware View インストール ガイド\]](#) を参照してください。View 4.5.x または 4.6.x からアップグレードしている場合は、おそらく View 4.5.x または 4.6.x のインストール時にイベント データベースもインストールされています。イベント データベースは View 5.0 にアップグレードする必要はありません。

残りの View サーバ コンポーネントをアップグレードします。View Composer を使用する場合は、[\[View Composer のみのアップグレード \(P. 29\)\]](#) または [\[別のマシンでの View Composer 2.7 および vCenter Server 5.0 へのアップグレード \(P. 34\)\]](#) を参照してください。VMware View with Local Mode を使用する場合は、[\[View Transfer Server のアップグレード \(P. 27\)\]](#) を参照してください。

View Connection Server を Windows Server 2008 オペレーティングシステムに再インストールしていて、パフォーマンス データを監視するようにデータ コレクタ セットを構成してある場合は、データ コレクタ セットを停止して再起動してください。

別のマシンでの View Connection Server 5.0 へのアップグレード

アップグレードの一部として、View Connection Server を新しいマシンに移行できます。たとえば、32 ビットの Windows 2003 Server マシンから 64 ビットの Windows 2008 Server マシンに View Connection Server を移行できます。64 ビット マシンの View Connection Server は、32 ビット マシンの 2 倍のエンドポイントを処理できます。

開始する前に

- 少なくとも 1 つの既存の View Connection Server インスタンスを View 5.0 にアップグレードします。[\[レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード \(P. 23\)\]](#) を参照してください。このアップグレードの間に、既存の View LDAP がアップグレードされます。
- 新しい物理マシンまたは仮想マシンが View Connection Server のインストールに対するシステム要件を満たしていることを確認します。[\[View Connection Server でサポートされるオペレーティングシステム \(P. 12\)\]](#) および [\[View Connection Server のハードウェア要件 \(P. 11\)\]](#) を参照してください。
- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。1 インスタンスにつき 15 ~ 30 分を予定してください。
- インストーラの実行に使用するホスト上に管理者権限のあるドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。
- レプリカ インスタンスをインストールするための手順をよく理解してください。[\[VMware View インストール ガイド\]](#) を参照してください。この手順の一部としてレプリカ インスタンスをインストールします。

既存のロード バランサの構成を変更する必要はありません。

手順

- 1 View Connection Server のアップグレードされたインスタンスが実行されていて、View Connection Server をインストールする予定の新しいマシンにアクセスできることを確認します。
新しいホストに View Connection Server をインストールするときは、この既存のインスタンスを指定します。
- 2 新しいマシンで、View Connection Server のレプリカ インスタンスをインストールします。
新しいインスタンスの View LDAP は、アップグレードされたソース インスタンスのものを複製します。
- 3 必要に応じて、Windows の [プログラムの追加と削除] コーティリティを使用して、古いホストから View Connection Server をアンインストールします。
- 4 View Administrator では、[View Configuration (View の構成)] - [Servers (サーバ)] に移動し、アンインストールした View Connection Server インスタンスがまだリストに表示されるかどうかを調べます。
- 5 アンインストールした View Connection Server インスタンスがまだリストに表示される場合は、`vdmadmin` コマンドを使用して削除します。

```
vdmadmin.exe -S -s <サーバ名> -r
```

この例では、<サーバ名> は View Connection Server ホストのホスト名または IP アドレスです。`vdmadmin` コマンド ライン ツールの詳細については、『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。

View Connection Server の新しいインスタンスがグループに追加されて、古いインスタンスが削除されます。

次に進む前に

View 4.0.x 以前からアップグレードしていて、アップグレードが成功した場合は、イベント データベースをインストールして構成します。方法については、『VMware View インストール ガイド』を参照してください。View 4.5.x または 4.6.x からアップグレードしている場合は、おそらく View 4.5.x または 4.6.x のインストール時にイベント データベースもインストールされています。イベント データベースは View 5.0 にアップグレードする必要はありません。

残りの View サーバ コンポーネントをアップグレードします。View Composer を使用する場合は、『View Composer のみのアップグレード (P. 29)』または『別のマシンでの View Composer 2.7 および vCenter Server 5.0 へのアップグレード (P. 34)』を参照してください。VMware View with Local Mode を使用する場合は、『View Transfer Server のアップグレード (P. 27)』を参照してください。

View Connection Server を Windows Server 2008 オペレーティング システムに再インストールしていて、パフォーマンス データを監視するようにデータ コレクタ セットを構成してある場合は、データ コレクタ セットを停止して再起動してください。

View Connection Server をスナップショットに戻した後のレプリカ グループの作成

アップグレードが失敗した場合、または他の理由で View Connection Server をホストする仮想マシンをスナップショットに戻す必要がある場合は、グループ内の他の View Connection Server インスタンスをアンインストールして、レプリカ グループを再作成する必要があります。

1 つの View Connection Server 仮想マシンをスナップショットに戻した場合、その仮想マシンのデータベースの View LDAP オブジェクトは、他のレプリカ インスタンスのデータベースの View LDAP オブジェクトと一致なくなっています。スナップショットに戻した後、次のイベントが Windows イベント ログ、VMwareVDMDS イベント ログ (イベント ID 2103) に記録されます。**Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス データベースは、サポートされていない復元方法を使って復元されました。**戻された仮想マシンは View LDAP の複製を停止します。

スナップショットに戻す必要がある場合は、他の View Connection Server インスタンスをアンインストールし、これらの仮想マシンの View LDAP をアンインストールした後、レプリカ インスタンスを再インストールする必要があります。

開始する前に

どの View Connection Server インスタンスを新しい標準つまりマスタの View Connection Server にするかを決定します。この Connection Server に必要な View 構成データが含まれます。

手順

- 1 新しい標準 View Connection Server インスタンスとして選択したもの以外のすべての View Connection Server インスタンスで、View Connection Server および View LDAP インスタンスをアンインストールします。

仮想マシンのオペレーティングシステムが Windows Server 2003 の場合は、View LDAP インスタンスの名前は ADAM Instance VMwareVDMDS です。オペレーティングシステムが Windows Server 2008 の場合は、View LDAP インスタンスの名前は AD LDS Instance VMwareVDMDS です。

- 2 標準つまりマスタの View Connection Server インスタンスをホストする仮想マシンでコマンド プロンプトを開き、次のコマンドを入力して、レプリケーションが無効になっていないことを確認します。

```
repadmin /options localhost:389 -DISABLE_OUTBOUND_REPL -DISABLE_INBOUND_REPL
```

- 3 レプリカの View Connection Server インスタンスをホストする仮想マシンで、View Connection Server インストーラを実行し、[View Replica Server] インストール オプションを選択して、標準 View Connection Server インスタンスのホスト名または IP アドレスを指定します。

View Connection Server インスタンスのレプリカ グループが再作成され、その View LDAP オブジェクトが一致するようになります。

View Transfer Server のアップグレード

View Transfer Server コンポーネントは View 4.5 で追加されました。View Transfer Server はオプションの View Manager コンポーネントであり、ローカル モードで実行するデスクトップのチェック イン、チェックアウト、およびレプリケーションをサポートします。

注意 この手順では、インプレース アップグレードについて説明します。異なるマシンに移行するには、[「別のマシンでの View Transfer Server 5.0 へのアップグレード \(P. 28\)」](#) を参照してください。

開始する前に

- インストーラの実行に使用する Windows Server でローカル管理者権限があることを確認し、アップグレードを実行します。
- 現在の View Transfer Server インスタンスがインストールされている仮想マシンが、View 5.0 のシステム要件を満たしていることを確認します。

[\[View Transfer Server でサポートされるオペレーティングシステム \(P. 14\)\]](#) を参照してください。

- View Transfer Server インスタンスで Transfer Server リポジトリにローカル ファイル システムを使用している場合は、Transfer Server リポジトリのディレクトリをバックアップします。

手順

- 1 View Transfer Server を保守モードにします。
 - a View Administrator で、[View Configuration (View の構成)] - [Servers (サーバ)] に移動し、View Transfer Server を選択して、[Enter Maintenance Mode (保守モードにする)] をクリックします。
 - b ステータスが保守に変わるまで待ちます。

すべてのアクティブな転送が完了するまで、ステータスは Maintenance Pending (保守保留中) のままです。
- 2 View Transfer Server インスタンスをホストしている仮想マシンで、VMware View 5.0 Transfer Server のインストーラを実行します。

旧バージョンがすでにインストールされているかどうかはインストーラによって判別され、アップグレードが実行されます。新規インストールの場合は、インストーラに表示されるインストール オプションの数が少なくなります。
- 3 インストーラ ウィザードが閉じた後、VMware View Transfer Server サービスが再起動したことを確認します。
- 4 View Administrator で、[View Configuration (View の構成)] - [Servers (サーバ)] に移動し、View Transfer Server を選択してから、[Exit Maintenance Mode (保守モードを終了する)] をクリックします。

次に進む前に

View Composer を使用する場合は、[「View Composer のみのアップグレード \(P. 29\)」](#) または [「別のマシンでの View Composer 2.7 および vCenter Server 5.0 へのアップグレード \(P. 34\)」](#) を参照してください。View サーバ コンポーネントのアップグレードが完了している場合は、次の保守期間に、VMware View のアップグレードを続行します。

- vSphere コンポーネントをアップグレードしている場合は、[第 6 章「ESX/ESXi ホストおよび仮想マシンのアップグレード \(P. 41\)」](#) を参照してください。
- View コンポーネントのみをアップグレードする場合は、[「View Agent のアップグレード \(P. 45\)」](#) を参照してください。

別のマシンでの View Transfer Server 5.0 へのアップグレード

アップグレードの一部として、View Transfer Server を新しいマシンに移行できます。たとえば、32 ビットの Windows 2003 Server マシンから 64 ビットの Windows 2008 Server マシンに View Transfer Server を移行できます。

開始する前に

- 新しい仮想マシンが View Transfer Server のインストールに対するシステム要件を満たしていることを確認します。[「View Transfer Server の要件 \(P. 13\)」](#) を参照してください。
- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。1 インスタンスにつき 15 ~ 30 分を予定してください。
- インストーラの実行に使用する Windows Server でローカル管理者権限があることを確認します。
- 元の View Transfer Server インスタンスで Transfer Server リポジトリにネットワーク共有を使用していた場合は、ネットワーク共有のディレクトリへのパスを控えておきます。

View Administrator で、[\[View Configuration \(View の構成\)\] - \[Transfer Server Repository \(Transfer Server リポジトリ\)\]](#) に移動します。

- View Transfer Server をインストールして構成するための手順をよく理解してください。『VMware View インストールガイド』を参照してください。
- 元の View Transfer Server インスタンスで Transfer Server リポジトリにローカル ファイル システムを使用していた場合は、Transfer Server リポジトリを新しい場所に移行するための手順をよく理解してください。『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。

手順

- 1 新しい仮想マシンで、View Transfer Server をインストールします。
- 2 View Administrator で、新しい View Transfer Server インスタンスを追加します。
[\[View Configuration \(View の構成\)\] - \[Servers \(サーバ\)\]](#)。
- 3 Transfer Server リポジトリがネットワーク共有上にある場合は、この新しい View Transfer Server がネットワーク共有の Transfer Server リポジトリにアクセスできることを確認します。
- 4 Transfer Server リポジトリが元の View Transfer Server のローカル ファイル システム上にある場合は、リポジトリを新しい場所に移行します。
- 5 View Administrator で、元の View Transfer Server インスタンスを削除します。
- 6 必要に応じて、Windows の [\[Add/Remove Programs \(プログラムの追加と削除\)\]](#) ユーティリティを使用して、古いホストから View Transfer Server をアンインストールします。

次に進む前に

View Composer を使用する場合は、[View Composerのみのアップグレード\(P.29\)](#) または [「別のマシンでの View Composer 2.7 および vCenter Server 5.0 へのアップグレード \(P. 34\)」](#) を参照してください。View サーバ コンポーネントのアップグレードが完了している場合は、次の保守期間に、VMware View のアップグレードを続行します。

- vSphere コンポーネントをアップグレードしている場合は、[第6章「ESX/ESXi ホストおよび仮想マシンのアップグレード \(P. 41\)」](#) を参照してください。
- View コンポーネントのみをアップグレードする場合は、[「View Agent のアップグレード \(P. 45\)」](#) を参照してください。

View Composer のみのアップグレード

最初の保守期間中に、View Connection Server をアップグレードした後、vCenter Server と同じ仮想マシンまたは物理マシンでホストされている View Composer もアップグレードできます。

以下の手順では、最初の保守期間の間に実行する必要がある作業の概要について説明します。一部の作業の実行には、他のマニュアルに記載されている手順が必要になる場合があります。

開始する前に

- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。所要時間については、[「vSphere アップグレード ガイド」](#) を参照してください。
- [「View Composer のみのアップグレードの準備 \(P. 21\)」](#) .
- インストーラとアップグレードを実行する際に使用するホスト上に、管理権限を持つドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。
- VMware View 3.0 に含まれる View Composer 1.0 からアップグレードする場合は、インストーラ ウィザードで View Composer データベースをアップグレードするかどうかを決定します。ウィザードが終了したら、**SviConfig** コマンドラインユーティリティを実行してデータベースを手動でアップグレードし、アップグレードのログを作成することができます。

注意 View Composer 1.0 から View Composer 2.7 への直接アップグレードはサポートされていません。この情報は、データベーススキーマのアップグレードが必要な場合に発生する製品の動作を示すためにのみ提供されています。

手順

- 1 View Composer インスタンスをアップグレードします。
 - a View Composer がインストールされている仮想マシンまたは物理マシン上で、View Composer 2.7 のインストーラをダウンロードして実行します。View Composer 2.5 は VMware View 5.0 に付属するバージョンです。
インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。
 - b View Composer 1.0 からアップグレードする場合は、ウィザードを使用してデータベースをアップグレードするかどうかを尋ねるプロンプトが表示されたら、ウィザードを使用してデータベースをアップグレードするかどうかを指定します。

View Composer 1.1 以降からアップグレードする場合は、データベーススキーマのアップグレードが不要なため、プロンプトは表示されません。

「Database upgrade completed with warnings(データベースのアップグレードが警告で終了しました)」というメッセージを含むダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックしてメッセージを無視してかまいません。
 - c ウィザードで View Composer のポート番号を要求されたら、ポート番号が **18443** に設定されていることを確認します。

vCenter Server 4 以降のリリースにはポート 8443 が必要なため、アップグレードを実行するとポート番号が以前の **8443** から **18443** に変更されます。

インストーラを実行する手順については、『VMware View インストール ガイド』を参照してください。
- 2 View Administrator で、必要な場合には、View Composer で使用するポート番号を変更します。
 - a vCenter Server インスタンスの構成を編集して、View Composer のポートが **18443** に設定されていることを確認します。

このポート番号は、View Composer のアップグレード中に指定されるポート番号と一致している必要があります。
 - b vCenter Server のパスワードを入力します。
 - c [Enable View Composer (View Composer の有効化)] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。
- 3 親仮想マシン上で View Agent をアップグレードし、テスト用のデスクトップ プールを作成します。
 - a 親仮想マシンで View 5.0 View Agent のインストーラをダウンロードして実行します。
インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。
 - b この仮想マシンから、小さなリンク クローン デスクトップ プールを作成します。
 - c 作成したデスクトップ プールから仮想デスクトップをテストして、あらゆる使用方法のシナリオが正常に機能することを確認します。

たとえば、1 つの仮想デスクトップを含むデスクトップ プールを作成し、View Client を使用してそのデスクトップにログインできることを確認します。

他のデスクトップソースでは View Agent をアップグレードしないでください。

View Agent インストーラを実行してデスクトップ プールを作成する手順については、『VMware View 管理者ガイド』(View Administrator の [ヘルプ] ボタンをクリックして表示) を参照してください。
- 4 テスト デスクトップ プール内の仮想デスクトップが期待どおりに機能することを確認します。

View Composer インスタンスはアップグレードされます。既存の View 4.0.x、4.5.x、または 4.6.x View Client、および View 4.0.x、4.5.x、または 4.6.x Agent がインストールされているデスクトップソースとの下位互換性が確保されています。

次に進む前に

次の保守期間に、VMware View のアップグレードを続行します。[View Agent のアップグレード (P. 45)]。

View Composer データベースの手動アップグレード

スキーマの更新が必要な場合、View Composer インストーラでデータベースをアップグレードする代わりに、手動でデータベースをアップグレードできます。アップグレード処理を細かく監視する必要がある場合、またはアップグレード作業を異なる役割の複数の IT 管理者に分担させる必要がある場合は、SviConfig ユーティリティを使用できます。

View Composer をデータベース スキーマが更新されているバージョンにアップグレードすると、データベースをアップグレードするためにウィザードを使用するかどうかを尋ねるプロンプトがインストーラにより表示されます。インストーラのウィザードを使用しない場合は、SviConfig ユーティリティを使用してデータベースをアップグレードし、既存のデータを移行する必要があります。

VMware View 3.1 に含まれる View Composer 1.1 またはそれ以降のバージョンからアップグレードする場合は、プロンプトは表示されません。

SviConfig コマンドライン ユーティリティを使用すると、次のような利点があります。

- このユーティリティでは、結果コードが返され、アップグレードが失敗した場合のトラブルシューティングを容易にするデータベース アップグレードのログが作成されます。
- アップグレード作業を分割できます。vSphere または View Manager の管理者は、View Composer インストーラを実行してソフトウェアをアップグレードできます。データベース管理者 (DBA) は、SviConfig を使用して、View Composer データベースをアップグレードできます。
- ソフトウェアのアップグレードとデータベースのアップグレードは、異なる保守期間に行うことができます。たとえば、サイトのデータベース保守操作は週末のみに実行し、ソフトウェア保守作業は週の途中で実行することが可能です。

SviConfig の実行によるデータベースの手動アップグレード

SviConfig コマンドライン ユーティリティを使用すると、View Composer データベースを View Composer ソフトウェアとは別にアップグレードできます。このユーティリティでは、アップグレードが失敗した場合のトラブルシューティングを容易にするログ ファイルも作成されます。

View Composer 2.0.x、2.5.x、または 2.6.x と View Composer 2.7 の間でデータベース スキーマは変更されていません。これらのリリースからアップグレードする場合は、この手順は不要です。

重要 SviConfig ユーティリティは、経験豊富な View Composer 管理者のみが使用してください。このユーティリティは、View Composer サービスに関連する問題を解決するためのものです。

開始する前に

View Composer データベースをバックアップします。手順については、データベース サーバのマニュアルを参照してください。

手順

- 1 vCenter Server の仮想マシンまたは物理マシンで、Windows コマンド プロンプトを開き、SviConfig 実行ファイルに移動します。

このファイルは、View Composer アプリケーションと同じ場所にあります。

オプション	アクション
32 ビット Windows	C:\Program Files\VMware\VMware View Composer\sviconfig.exe に移動します。
64 ビット Windows	C:\Program Files (86)\VMware\VMware View Composer\sviconfig.exe に移動します。

- 2 次のコマンドを入力して VMware View Composer サービスを停止します。

```
net stop svid
```

- 3 SviConfig databaseupgrade コマンドを実行します。

```
sviconfig -operation=databaseupgrade
-DsnName=<対象のデータベース ソース名 (DSN)>
-Username=<データベース管理者のユーザー名>
-Password=<データベース管理者のパスワード>
```

例：

```
sviconfig -operation=databaseupgrade -dsname=LinkedClone
-username=Admin -password=Pass
```

操作が成功すると、アップグレード手順を示す出力が表示されます。

```
Establishing database connection.
Database connection established successfully.
Upgrading database.
Load data from SVI_VC_CONFIG_ENTRY table.
Update SVI_DEPLOYMENT_GROUP table.
Update SVI_REPLICA table.
Update SVI_SIM_CLONE table.
SviConfig finished successfully.
Database is upgraded successfully.
```

- 4 次のコマンドを入力して VMware View Composer サービスを開始します。

```
net start svid
```

アップグレード処理の完全なログが作成されます。

オプション	説明
Windows Server 2003	C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\VMware\View Composer\Logs\vmware-sviconfig.log
Windows Server 2008	C:\Users\All Users\VMware\View Composer\vmware-sviconfig.log

次に進む前に

データベースのアップグレードが失敗する場合は、[「View Composer データベース アップグレードの失敗のトラブルシューティング \(P. 33\)」](#) を参照してください。

結果コードが成功を意味する 0 以外の数字の場合は、[「手動データベーススキーマ更新の結果コード\(P.32\)」](#) を参照してください。

手動データベース スキーマ更新の結果コード

View Composer データベースを手動でアップグレードすると、sviconfig databaseupgrade コマンドで結果コードが表示されます。

表 5-1 に sviconfig databaseupgrade の結果コードを示します。

表 5-1. databaseupgrade コマンドの結果コード

コード	説明
0	操作は正常に終了しました。
1	指定された DSN が見つかりませんでした。
2	無効なデータベース管理者認証情報が指定されました。

表 5-1. databaseupgrade コマンドの結果コード (続き)

コード	説明
3	データベースのドライバがサポートされていません。
4	予期しない問題が発生し、コマンドは完了できませんでした。
14	別のアプリケーションが View Composer サービスを使用しています。コマンドを実行する前にサービスをシャットダウンしてください。
15	復元処理の間に問題が発生しました。詳細については、画面のログ出力を参照してください。
17	データベースのデータをアップグレードできません。
18	データベース サーバに接続できません。

View Composer データベース アップグレードの失敗のトラブルシューティング

View Composer インストーラを使用して、または `SviConfig databaseupgrade` コマンドを実行して View Composer サービスをアップグレードするときに、View Composer データベースのアップグレード操作が失敗する場合があります。

問題

`SviConfig databaseupgrade` の操作でエラー コード 17 が表示される、または View Composer インストーラで次の警告メッセージが表示される。

Database upgrade completed with warnings(データベースのアップグレードが警告で終了しました)

原因

データベース アップグレード ソフトウェアは、vCenter Server に接続して、デスクトップについての追加データを取得します。デスクトップが使用できない場合、ESX ホストが実行されていない場合、または vCenter Server が使用できない場合は、データベースのアップグレードが失敗することがあります。

解決方法

- 1 詳細については、View Composer の `SviConfig` ログ ファイルを参照してください。

オプション	アクション
Windows Server 2003	C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\VMware\View Composer\Logs\vmware-sviconfig.log に移動します。
Windows Server 2008	C:\Users\All Users\VMware\View Composer\vmware-sviconfig.log に移動します。

アップグレード スクリプトは、失敗ごとにメッセージをログに記録します。

- 2 ログの記録を調べて、アップグレードに失敗したデスクトップを特定します。

オプション	アクション
デスクトップは存在するが使用できない。	デスクトップを再度使用できるようにします。 失敗の原因に応じて、ESX ホストまたは vCenter Server の再起動、あるいはその他のアクションが必要になる場合があります。
デスクトップが存在しない。	ログメッセージを無視します。 注意 管理者が vSphere でデスクトップ仮想マシンを直接削除した場合、削除したデスクトップが View Manager では存在するように表示される場合があります。

- 3 `SviConfig databaseupgrade` コマンドを再び実行します。

別のマシンでの View Composer 2.7 および vCenter Server 5.0 へのアップグレード

最初の保守期間中に、View Connection Server をアップグレードした後、同じ仮想マシンまたは物理マシン上でホストされている View Composer および vCenter Server もアップグレードできます。



注意 View Composer および vCenter Server を新しいマシンに移行するときに、新しいマシンで同じホスト名と IP アドレスを使用するか、ホスト名または IP アドレス、あるいはその両方を変更するかを選択できます。

ただし、ホスト名または IP アドレスを変更した場合は、親仮想マシンを View 5.0 Agent にアップグレードしても、View Composer デスクトッププールを再構成できない場合があります。アップグレードの後で View Composer デスクトッププールを再作成する場合にのみ、vCenter Server のホスト名または IP アドレスを変更してください。

View Composer を移行するための移行元マシンの準備

vSphere 4.1.x および 5.0.x の場合、vCenter Server は 64 ビット Windows オペレーティングシステムでのみサポートされます。現在の vCenter Server および View Composer サーバが 32 ビット Windows マシンにインストールされている場合は、アップグレードの一部として 64 ビット Windows マシンに移行する必要があります。

最初に移行元コンピュータで View Composer を 2.6 にアップグレードし、必要に応じて、VirtualCenter Server も vCenter Server 4.0 にアップグレードします。その後、View Composer 2.6 および vCenter Server 4.0 を移行先コンピュータに移行します。移行先コンピュータですべてが動作することを確認した後、View Composer 2.7 および vCenter Server 5.0 にアップグレードします。

以下の手順では、最初の保守期間の間に実行する必要がある作業の概要について説明します。一部の作業の実行には、他のマニュアルに記載されている手順が必要になる場合があります。

開始する前に

- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。所要時間については、『vSphere アップグレード ガイド』を参照してください。
- [\[vSphere を含むアップグレードの準備 \(P. 20\)\]](#) これらの作業には、View Composer データベースと vCenter Server データベースのバックアップ、および `%ALLUSERSPROFILE%\Application Data\VMware\VMware VirtualCenter` にある SSL 証明書フォルダのコピーが含まれます。
- インストーラとアップグレードを実行する際に使用するホスト上に、管理権限を持つドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。
- Virtual Infrastructure コンポーネントを vSphere にアップグレードする場合は、vSphere の適切なライセンス キーがあることを確認します。
- 現在 VirtualCenter Server 2.5 を使用している場合は、『vSphere 4.0 アップグレード ガイド』をダウンロードして印刷してください。vCenter Server 5.0 にアップグレードする前に、vCenter Server 4.0 にアップグレードする必要があります。
- vSphere 5.0 データ移行ツールを使用して vCenter Server の移行を実行するかどうかを判断します。このツールについては、『vSphere アップグレード ガイド』にある、別のマシンでの vCenter Server へのアップグレードおよび既存のデータベースのアップグレードに関する章を参照してください。

手順

- 1 vCenter Server および View Composer がインストールされている既存の仮想マシンまたは物理マシンで、View Composer 2.6 のインストーラをダウンロードして実行します。View Composer 2.6 は VMware View 4.6 に付属するバージョンです。
 - a VMware の Web サイトからインストーラをダウンロードします。
 - b ウィザードで View Composer のポート番号を要求されたら、ポート番号が **18443** に設定されていることを確認します。
View Composer 1.1 からアップグレードする場合は、vCenter Server 4 にはポート 8443 が必要なため、アップグレードを実行するとポート番号が以前の **8443** から **18443** に変更されます。
インストーラを実行する手順については、『VMware View 4.6 インストール ガイド』を参照してください。
- 2 VirtualCenter Server 2.5 を実行している場合は、『vSphere 4.0 アップグレード ガイド』の説明に従って、VirtualCenter Server を vCenter Server 4.0 Update 2 以降にアップグレードします。
移行先マシンで vCenter Server 5.0 へのアップグレードを完了します。
- 3 データベースのツールを使用して、vCenter Server データベースおよび View Composer データベースの新しいバックアップを作成します。
- 4 vCenter Server をアップグレードした場合は、View Composer サービスを再起動します。
- 5 View Administrator で、View Composer で使用するポート番号を確認します。
 - a vCenter Server の構成を編集して、必要な場合は View Composer のポートを **18443** に変更します。
このポート番号は、View Composer のアップグレード中に指定されるポート番号と一致している必要があります。
 - b vCenter Server のパスワードを入力します。
 - c [Enable View Composer (View Composer の有効化)] チェック ボックスを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 テスト用プールを作成し、View Composer が正常に動作していることを確認します。
- 7 View Composer で使用される RSA 鍵コンテナを移行します。
 - a 移行元マシンで、コマンド プロンプトを開き、ディレクトリを **aspnet_regiis** プログラムが存在する場所に変更します。

```
cd %windir%\Microsoft.NET\Framework\v2.0.<xxxxx>
```


コンピュータ上に **aspnet_regiis** プログラムのコピーが複数ある場合は、その中の 1 つを **v2.0.<xxxxx>** ディレクトリで使用します。
 - b **aspnet_regiis** コマンドを入力して、RSA キー ペアをローカル ファイルに保存します。

```
aspnet_regiis -px "SviKeyContainer" "keys.xml" -pri
```


このコマンドは、RSA の公開/秘密キー ペアを SviKeyContainer コンテナから **keys.xml** ファイルにエクスポートします。
 - c **keys.xml** ファイルを移行先マシンにコピーします。
- 8 移行元マシンで、VMware VirtualCenter Server サービスおよび VMware View Composer サービスを停止します。
- 9 新しい移行先マシンで同じ名前と IP アドレスを使用する場合は、移行先マシンで元の名前と IP アドレスを使用できるように、移行元マシンのホスト名と IP アドレスを変更します。
- 10 vSphere 5.0 データ移行ツールを使用する場合は、『vSphere 5.0 アップグレード ガイド』にある、別のマシンでの vCenter Server へのアップグレードおよび既存のデータベースのアップグレードに関する章の説明に従ってこのツールを実行します。

次に進む前に

vSphere 5.0 データ移行ツールを使用する場合は、『vSphere 5.0 アップグレード ガイド』にある、別のマシンでの vCenter Server へのアップグレードおよび既存のデータベースのアップグレードに関する章の説明に従って、vCenter Server データベースのバックアップと復元、および 64 ビット データ ソース名 (DSN) の作成の作業を完了します。次に、「[データ移行ツールを使用した新しいマシンへの移行 \(P. 36\)](#)」で説明されている手順を実行します。

vSphere 5.0 データ移行ツールを使用しない場合は、つぎで説明した手順を実行します。「[新しいマシンへの View Composer の手動による移行 \(P. 38\)](#)」。

データ移行ツールを使用した新しいマシンへの移行

移行元マシンを準備したら、vCenter Server データ移行ツールを使用して、vCenter Server を移行先マシンに簡単に移動できます。

以下の手順では、vCenter Server データ移行ツールを使用する場合に実行する必要がある作業の概要を示します。一部の作業の実行には、『vSphere 5.0 アップグレード ガイド』および『VMware View インストール ガイド』に記載されている手順が必要です。



注意 この手順の間に、vCenter Server および View Composer をホストするマシンのホスト名または IP アドレスを変更した場合、親仮想マシンを View 5.0 Agent にアップグレードした後であっても、通常の View Composer デスクトップ プールを再構成できない場合があります。アップグレードの後で View Composer デスクトップ プールを再作成する場合にのみ、vCenter Server のホスト名または IP アドレスを変更してください。

開始する前に

- 移行元マシンに必要な作業を実行します。詳細については、「[View Composer を移行するための移行元マシンの準備 \(P. 34\)](#)」を参照してください。
- Microsoft .NET Framework および ASP.NET IIS 登録ツールが移行元と移行先のコンピュータにインストールされていることを確認します。RSA キーを移行するための Microsoft .NET Framework の準備については、『VMware View 管理』ドキュメントのトピックを参照してください。
- インストーラとアップグレードを実行する際に使用するホスト上に、管理権限を持つドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。
- Virtual Infrastructure コンポーネントを vSphere にアップグレードする場合は、vSphere の適切なライセンス キーがあることを確認します。

手順

- 1 新しい移行先マシンで、ホスト名と IP アドレスを設定します。

ホスト名と IP アドレスは、移行元マシンでもともと使用されていた名前と IP アドレスに設定することも、新しいホスト名と IP アドレス（一方または両方）にすることもできます。

- 2 View Composer で使用される RSA 鍵コンテナを移行します。

- a ターゲット マシンでコマンド プロンプトを開き、ディレクトリを `aspnet_regiis` プログラムが格納されているディレクトリに変更します。

```
cd %windir%\Microsoft.NET\Framework\v2.0.<xxxxx>
```

コンピュータ上に `aspnet_regiis` プログラムのコピーが複数ある場合は、その中の 1 つを `v2.0.<xxxxx>` ディレクトリで使用します。

- b `aspnet_regiis` コマンドを使用して、RSA 鍵ペアをインポートします。

```
aspnet_regiis -pi "SviKeyContainer" "<path>\keys.xml"
```

このコマンドでは、`<path>\keys.xml` が `keys.xml` ファイルへの完全パスとなります。

ツールによって、鍵ペアのデータがローカルの鍵コンテナにインポートされます。

- 3 『vSphere 5.0 アップグレード ガイド』に記載されている、vCenter Server の構成の復元および新しいマシンへの vCenter Server のインストールに関する作業を実行します。

データ移行ツールは、バンドルされている SQL Server 2005 Express データベース サーバを移行し（使用している場合）、データベース用の 64 ビット DSN を作成します。別のデータベースを使用している場合のアップグレード方法については、以下で説明します。この手順では、SSL 証明書フォルダも新しいマシンにコピーします。

データ移行ツールは、View Composer データベースの復元または DSN の作成は行いません。

- 4 ローカル データベース サーバを使用する場合は、ベンダーのデータベースツールを使用して、vCenter Server データベースおよび View Composer データベースをリストアまたは接続します。
- 5 vCenter Server および View Composer 用に 64 ビットのドメイン サーバ名 (DSN) をそれぞれ作成します。
手順については、『vSphere のアップグレード』マニュアルと『VMware View のインストール』マニュアルを参照してください。
- 6 VMware View の今回のリリースに含まれる View Composer のバージョン向けのインストーラをダウンロードして実行します。

インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。

- 7 インストーラ ウィザードが終了した後で、View Composer サービスが開始されることを確認します。
- 8 移行先マシンのホスト名または IP アドレスを変更した場合は、View Connection Server をホストするマシンで、View Administrator にログインし、vCenter Server の構成設定を更新します。
 - a サーバアドレスが正しいホスト名を使用するように、vCenter Server の設定を編集します。
ホスト名を変更した場合は、新しい名前を入力します。このフィールドには IP アドレスも入力できますが、ホスト名を使用することをお勧めします。
 - b vCenter Server のパスワードを入力します。
 - c [View Composer の有効化] チェック ボックスを選択し、[OK] をクリックします。
View Composer を有効にする前に、新しい vCenter Server の設定を適用します。
 - d しばらくしてから、vCenter Server の設定を再び編集し、[View Composer の有効化] を選択して、[OK] をクリックします。

View Composer および vCenter Server インスタンスはアップグレードされます。既存の View 4.0.x、4.5.x、および 4.6.x View Client、および View 4.0.x、4.5.x、または 4.6.x Agent がインストールされているデスクトップソースとの下位互換性が確保されています。

次に進む前に

テスト用のデスクトップ プールを作成し、テスト用プールの仮想デスクトップが意図したとおりに動作することを確認します。

vCenter Server をアップグレードしたら、『vSphere アップグレード ガイド』に従ってアップグレード後のタスクを実行します。

次の保守期間に、VMware View のアップグレードを続行します。詳細については、[第 6 章「ESX/ESXi ホストおよび仮想マシンのアップグレード \(P. 41\)」](#) を参照してください。

新しいマシンへの View Composer の手動による移行

移行元マシンを準備したら、移行先マシンでいくつかの作業を実行する必要があります。vCenter Server データ移行ツールを使用しない場合は、必要な作業を手動で実行できます。

vCenter Server データ移行ツールを使用している場合、一部の手順は自動的に実行されます。アップグレードを段階的に実行し、すべての手順でアップグレードが正常に行われていることを確認できるようにする場合は、ツールを使用しなくてもかまいません。この手順を実行する代わりにデータ移行ツールを使用する場合は、「[データ移行ツールを使用した新しいマシンへの移行 \(P.36\)](#)」。



注意 この手順の間に、vCenter Server および View Composer をホストするマシンのホスト名または IP アドレスを変更した場合、親仮想マシンを View 5.0 Agent にアップグレードした後であっても、通常の View Composer デスクトッププールを再構成できない場合があります。アップグレードの後で View Composer デスクトッププールを再作成する場合には、vCenter Server のホスト名または IP アドレスを変更してください。

開始する前に

- 移行元マシンに必要な作業を実行します。「[View Composer を移行するための移行元マシンの準備 \(P.34\)](#)」。
- Microsoft .NET Framework および ASP.NET IIS 登録ツールが移行元と移行先のコンピュータにインストールされていることを確認します。RSA キーを移行するための Microsoft .NET Framework の準備については、『VMware View 管理』ドキュメントのトピックを参照してください。
- インストーラとアップグレードを実行する際に使用するホスト上に、管理権限を持つドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。
- Virtual Infrastructure コンポーネントを vSphere にアップグレードする場合は、vSphere の適切なライセンス キーがあることを確認します。
- 『vSphere 4.0 アップグレード ガイド』および『vSphere 5.0 アップグレード ガイド』を印刷するか、参照できるようにします。

手順

- 1 新しい移行先マシンで、ホスト名と IP アドレスを設定します。

ホスト名と IP アドレスは、移行元マシンでもともと使用されていた名前と IP アドレスに設定することも、新しいホスト名と IP アドレス（一方または両方）にすることもできます。

- 2 View Composer で使用される RSA 鍵コンテナを移行します。

- a ターゲット マシンでコマンド プロンプトを開き、ディレクトリを `aspnet_regiis` プログラムが格納されているディレクトリに変更します。

```
cd %windir%\Microsoft.NET\Framework\v2.0.<xxxxx>
```

コンピュータ上に `aspnet_regiis` プログラムのコピーが複数ある場合は、その中の 1 つを `v2.0.<xxxxx>` ディレクトリで使用します。

- b `aspnet_regiis` コマンドを使用して、RSA 鍵ペアをインポートします。

```
aspnet_regiis -pi "SviKeyContainer" "<path>\keys.xml"
```

このコマンドでは、`<path>\keys.xml` が `keys.xml` ファイルへの完全パスとなります。

ツールによって、鍵ペアのデータがローカルの鍵コンテナにインポートされます。

- 3 SSL 証明書フォルダを移行先マシンにコピーします。

オプション	アクション
Windows 2003 Server	%ALLUSERSPROFILE%\Application Data\VMware\VMware VirtualCenter にフォルダをコピーします。
Windows 2008 Server	%ALLUSERSPROFILE%\VMware\VMware VirtualCenter にフォルダをコピーします。

- 4 ローカル データベース サーバを使用する場合は、ベンダーのデータベースツールを使用して、vCenter Server データベースおよび View Composer データベースをリストアまたは接続します。
- 5 vCenter Server 4.0 データベース用の 32 ビット DSN を作成します。
- 詳細については、『vSphere 4.0 アップグレード ガイド』で 64 ビット オペレーティング システムでの 32 ビット DSN の作成に関するトピックを参照してください。
- 移行先マシンに 5.0 ではなく vCenter Server 4.0 をインストールする場合は、この 32 ビット DSN が必要です。データ移行ツールは移行先マシンに vCenter Server 5.0 をインストールします。
- 6 vCenter Server および View Composer 用に 64 ビットのドメイン サーバ名 (DSN) をそれぞれ作成します。
- 手順については、『vSphere のアップグレード』マニュアルと『VMware View のインストール』マニュアルを参照してください。
- 7 vCenter Server 4.0 Update 2 以降をインストールします。
- 方法については、『vSphere 4.0 アップグレード ガイド』を参照してください。インストール ウィザードでは、先に作成した 32 ビット DNS を選択します。
- 8 VMware View の今回のリリースに含まれる View Composer のバージョン向けのインストーラをダウンロードして実行します。
- インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。
- 9 テスト用のデスクトップ プールを作成し、テスト用プールの仮想デスクトップが意図したとおりに動作することを確認します。
- 10 『vSphere 5.0 アップグレード ガイド』にある vCenter Server 5.0 へのアップグレードに関する章の説明に従って、vCenter Server 4.0 を 5.0 にアップグレードします。
- 11 View Composer サービスを再起動します。
- 12 移行先マシンのホスト名または IP アドレスを変更した場合は、View Administrator にログインして、vCenter Server の構成設定をアップデートします。
- サーバアドレスが正しいホスト名を使用するように、vCenter Server の設定を編集します。
- ホスト名を変更した場合は、新しい名前を入力します。このフィールドには IP アドレスも入力できますが、ホスト名を使用することをお勧めします。
- vCenter Server のパスワードを入力します。
 - [View Composer の有効化] チェック ボックスを選択し、[OK] をクリックします。
- View Composer を有効にする前に、新しい vCenter Server の設定を適用します。
- しばらくしてから、vCenter Server の設定を再び編集し、[View Composer の有効化] を選択して、[OK] をクリックします。

View Composer および vCenter Server インスタンスはアップグレードされます。既存の View 4.0.x、4.5.x、および 4.6.x View Client、および View 4.0.x、4.5.x、または 4.6.x Agent がインストールされているデスクトップ ソースとの下位互換性が確保されています。

次に進む前に

vCenter Server をアップグレードしたら、『vSphere アップグレード ガイド』に従ってアップグレード後のタスクを実行します。

次の保守期間に、VMware View のアップグレードを続行します。[第 6 章 \[ESX/ESXi ホストおよび仮想マシンのアップグレード \(P.41\)\]](#)。

ESX/ESXi ホストおよび仮想マシンのアップグレード

6

ESX/ESXi ホストおよび仮想マシンを vSphere 5.0 にアップグレードする作業は、VMware View アップグレードのこの中間段階で最も時間のかかる部分です。

ESX/ESXi 3.5 からのアップグレードは、ESX/ESXi 4.x からのアップグレードより多くの手順を必要とします。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ESX 3.5 ホストとその仮想マシンのアップグレード \(P. 41\)](#)
- [ESX 4.0.x または 4.1.x ホストとその仮想マシンのアップグレード \(P. 42\)](#)

ESX 3.5 ホストとその仮想マシンのアップグレード

ESX 3.5 ホストおよび仮想マシンのアップグレードには、ホストのアップグレード、仮想マシンの仮想ハードウェアのバージョンのアップグレード、および仮想マシンの VMware Tools のバージョンのアップグレードが含まれます。

以下の手順では、2 番目およびそれ以降の保守期間の間に行う必要がある作業の概要について説明します。一部の作業の実行には、『vSphere アップグレード ガイド』および『VMware View 管理者ガイド』に記載されている手順が必要になる場合があります。

開始する前に

- 親仮想マシンのエージェントをアップグレードする場合は、『[レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード \(P. 23\)](#)』で説明した手順を実行します。
- 『vSphere アップグレード ガイド』に一覧表示されている ESX/ESXi アップグレードの準備作業を実行します。
- Virtual Infrastructure コンポーネントを vSphere にアップグレードする場合は、vSphere の適切なライセンス キーがあることを確認します。
- すべての ESX/ESXi ホストがクラスタのメンバーであることを確認します。スタンドアロンのホストをアップグレードする場合は、単一ホストのクラスタに配置します。

手順

- 1 ESX/ESXi ホストを 1 クラスタずつ vSphere 5.0 にアップグレードします。

手順については、『vSphere アップグレード ガイド』を参照してください。クラスタが多数ある場合は、この手順を完了するために複数の保守期間が必要となることがあります。ESX/ESXi ホストのアップグレードでは、次の作業を実行します。

- a VMotion を使用して、仮想マシンを ESX/ESXi ホストの外に移動します。
- b ホストを保守モードにします。
- c アップグレードを実行します。

- d VMotion を使用して、仮想マシンをホスト上に戻します。
 - e ESXi ホストのアップグレード後の作業を実行します。
- 前提条件で示したように、すべてのホストはクラスタのメンバーである必要があります。
- 2 アップグレードしたホストが自動的に vCenter に再接続されない場合は、vSphere Client を使用してホストを vCenter Server に再接続します。
 - 3 View Composer を使用する場合は、すべての ESX/ESXi ホストをアップグレードした後、vCenter Server ホストで View Composer サービスを再起動します。
 - 4 親仮想マシン上で View Agent を 5.0 にアップグレードし、テスト デスクトップ プールを作成します。

この新しいテスト デスクトップ プールでは、新しい View Composer API が使用されるため、レプリカからソース リンク クローンが作成されません。vCenter Server を使用して仮想マシンの作成を監視すると、レプリカが **source-1c** 仮想マシンではなく親から作成されることがわかります。
 - 5 すべての親仮想マシン上の VMware Tools および仮想ハードウェアと、仮想マシン テンプレート、および View Connection Server インスタンスなどの View サーバ コンポーネントをホストしている仮想マシンをアップグレードします。
 - a 『vSphere アップグレード ガイド』の説明に従って、ダウンタイムの計画を立てます。

各仮想マシンを 3 回ずつ再起動する必要があります。
 - b VMware Tools をアップデートし、リモート View デスクトップに使用される仮想マシンの場合は仮想マシンハードウェアをバージョン 8 にアップグレードし、ローカル モードの View デスクトップに使用される仮想マシンの場合はバージョン 7 にアップグレードします。

View 5.0 で提供される Windows 7 3D レンダリング機能を使用するには、仮想マシンハードウェアをバージョン 8 にアップグレードする必要があります。

vSphere Update Manager を使用すると、特定のフォルダ内にあるすべての仮想マシンで、VMware Tools の次に仮想マシンのハードウェア バージョンという正しい順序でアップデートを実行できます。『vSphere アップグレード ガイド』を参照してください。
 - 6 フル クローン デスクトップを使用する場合、各仮想マシンで、ローカル モードの View デスクトップの場合は VMware Tools と仮想ハードウェアをバージョン 7 にアップグレードし、リモート View デスクトップの場合はバージョン 8 にアップグレードします。

View 5.0 で提供される Windows 7 3D レンダリング機能を使用するには、仮想マシンハードウェアをバージョン 8 にアップグレードする必要があります。

vSphere Update Manager を使用すると、特定のフォルダ内にあるすべての仮想マシンで、VMware Tools の次に仮想マシンのハードウェア バージョンという正しい順序でアップデートを実行できます。『vSphere アップグレード ガイド』を参照してください。

次に進む前に

View Agent をアップグレードします。詳細については、[View Agentのアップグレード\(P.49\)](#) を参照してください。

ESX 4.0.x または 4.1.x ホストとその仮想マシンのアップグレード

ESX 4.0.x および 4.1.x ホストとその仮想マシンのアップグレードは、ESX 3.5 からのアップグレードより少ない手順で済みます。

以下の手順では、2 番目およびそれ以降の保守期間の間に実行する必要がある作業の概要について説明します。一部の作業の実行には、『vSphere アップグレード ガイド』および『VMware View 管理者ガイド』に記載されている手順が必要になる場合があります。

開始する前に

次の準備作業を実行します。

- 親仮想マシンのエージェントをアップグレードする場合は、[「レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード \(P.23\)」](#)で説明した手順を実行します。
- [『vSphere アップグレード ガイド』](#)に一覧表示されている ESX/ESXi アップグレードの準備作業を実行します。

手順

- 1 ESX/ESXi ホストを 1 クラスタずつ vSphere 5.0 にアップグレードします。

手順については、[『vSphere アップグレード ガイド』](#)を参照してください。クラスタが多数ある場合は、この手順を完了するために複数の保守期間が必要となることがあります。ESX/ESXi ホストのアップグレードでは、次の作業を実行します。

- a VMotion を使用して、仮想マシンを ESX/ESXi ホストの外に移動します。
- b ホストを保守モードにします。
- c アップグレードを実行します。
- d VMotion を使用して、仮想マシンをホスト上に戻します。
- e ESXi ホストのアップグレード後の作業を実行します。

前提条件で示したように、すべてのホストはクラスタのメンバーである必要があります。

- 2 アップグレードしたホストが自動的に vCenter に再接続されない場合は、vSphere Client を使用してホストを vCenter Server に再接続します。
- 3 View Composer を使用する場合は、すべての ESX/ESXi ホストをアップグレードした後、vCenter Server ホストで View Composer サービスを再起動します。
- 4 すべての親仮想マシン上の VMware Tools、仮想マシン テンプレート、および View Connection Server インスタンスなどの View サーバ コンポーネントをホストしている仮想マシンをアップグレードします。

- a [『vSphere アップグレード ガイド』](#)の説明に従って、ダウンタイムの計画を立てます。

各仮想マシンを 3 回ずつ再起動する必要があります。

- b VMware Tools をアップデートし、リモート View デスクトップに使用される仮想マシンの場合は仮想マシンハードウェアをバージョン 8 にアップグレードし、ローカル モードの View デスクトップに使用される仮想マシンの場合はバージョン 7 にアップグレードします。

View 5.0 で提供される Windows 7 3D レンダリング機能を使用するには、仮想マシンハードウェアをバージョン 8 にアップグレードする必要があります。

vSphere Update Manager を使用すると、特定のフォルダ内にあるすべての仮想マシンで、VMware Tools の次に仮想マシンのハードウェアバージョンという正しい順序でアップデートを実行できます。[『vSphere アップグレード ガイド』](#)を参照してください。

- 5 フル クローン デスクトップを使用する場合、各仮想マシンで、ローカル モードの View デスクトップの場合は VMware Tools と仮想ハードウェアをバージョン 7 にアップグレードし、リモート View デスクトップの場合はバージョン 8 にアップグレードします。

View 5.0 で提供される Windows 7 3D レンダリング機能を使用するには、仮想マシンハードウェアをバージョン 8 にアップグレードする必要があります。

vSphere Update Manager を使用すると、特定のフォルダ内にあるすべての仮想マシンで、VMware Tools の次に仮想マシンのハードウェアバージョンという正しい順序でアップデートを実行できます。[『vSphere アップグレード ガイド』](#)を参照してください。

次に進む前に

View Agent をアップグレードします。詳細については、[View Agentのアップグレード\(P.45\)](#)を参照してください。

VMware View のデスクトップとクライアントのアップグレード

7

アップグレードできるデスクトップおよびクライアント コンポーネントとして、View デスクトップのオペレーティングシステム内で実行している View Client for Windows、View Client for Mac、VMware パートナーから提供されるシンクライアント、および View Agent があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View Agent のアップグレード \(P. 45\)](#)
- [View Composer デスクトップ プールのアップグレード \(P. 47\)](#)
- [View Client のアップグレード \(P. 48\)](#)
- [View Local Mode Client のアップグレード \(P. 49\)](#)
- [View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード \(P. 50\)](#)

View Agent のアップグレード

View Agent のアップグレード方法は、デスクトップソースの種類によって決まります。

ここでは、デスクトップソースとして使用されるさまざまな仮想マシンで View Agent をアップグレードするために実行する必要のある作業の概要について説明します。一部の作業の実行には、vSphere Client のオンライン ヘルプまたは『VMware View 管理者ガイド』（View Administrator で [ヘルプ] ボタンをクリックして表示）に記載されている手順が必要になる場合があります。

重要 View Agent を 4.5 より前のバージョンからアップグレードする場合、グループ ポリシー オブジェクト (GPO) を使用して Windows ファイアウォールを無効にしてあると、インストーラで次のいずれかのエラーが発生し、アップグレードはロールバックされます。

- エラー 28014。ファイアウォールを閉じることができません。
- 警告 28013 ファイアウォールを開くことができません。
- 内部エラー 28051 共有アクセス。

エラー 28014 または警告 28013 が発生する場合は、GPO を使用してファイアウォール サービスを有効にし、インストーラを再実行してエージェントをアップグレードする必要があります。内部エラー 28051 が発生する場合は、エラー メッセージ ボックスで [OK] をクリックしてアップグレードを続行します。

開始する前に

次の準備作業を実行します。

- ESX ホストおよび仮想マシンをアップグレードする場合は、[第 6 章 \[ESX/ESXi ホストおよび仮想マシンのアップグレード \(P. 41\)\]](#) で説明した手順を実行します。

- インストーラとアップグレードを実行する際に使用するホスト上に、管理権限を持つドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。

手順

- 1 親仮想マシンおよび仮想マシン テンプレート上で、View Agent 5.0 のインストーラをダウンロードして実行します。
インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。View Agent インストーラを実行する手順については、『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。
- 2 アップグレードした親仮想マシンごとにスナップショットを作成します。これは、View Composer でリンク クローン デスクトップ プールを作成するために使用します。
プール内のすべての仮想マシンを再構成するために新しいスナップショットを使用します。
スナップショットの作成手順については、vSphere Client のオンライン ヘルプを参照してください。
- 3 フル クローン デスクトップを使用する場合、あるいは個別のデスクトップまたは手動プールの一部として追加した他の仮想マシンを使用する場合は、ソフトウェアのアップグレードに通常使用している任意の他社製ツールを使用して、View Agent をアップグレードしてください。
View 4.0.x の展開では個別のデスクトップと呼ばれた View デスクトップは、View 4.5 以降のバージョンでは手動プールに追加されます。個別のデスクトップの場合、手動プールにはデスクトップが 1 つだけ含まれます。
- 4 リンク クローン プールではない自動または手動 Windows 7 プールの場合、View 5.0 で提供される Windows 7 3D レンダリング機能を使用するには、プールを編集し、仮想マシン デスクトップのパワーオフとパワーオンを実行します。
 - a 次のプール設定を構成します。
 - PCoIP 表示プロトコルを使用するようにプールを設定します。
 - [Allow users to choose protocol (ユーザーがプロトコルを選択できるようにする)] を [No (いいえ)] に設定します。
 - [Windows 7 3D Rendering (Windows 7 3D レンダリング)] 機能をオンにします。
 - b 各仮想マシンをパワーオフしてから再度パワーオンします。
仮想マシンのパワーオフとパワーオンを実行する代わりに再起動した場合、この設定は有効になりません。
- 5 Windows Terminal Server、物理 PC、またはブレード PC をデスクトップ ソースとして使用する場合は、その物理マシン上で View Agent 5.0 のインストーラをダウンロードして実行します。
インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。
- 6 アップグレードされていない View Client を使用して、アップグレード済みの View 5.0 デスクトップ ソースに旧 View Client ソフトウェアでログインできることを確認します。

次に進む前に

View Composer デスクトップ プールを使用している場合は、プールを再構成または再作成します。[[View Composer デスクトップ プールのアップグレード \(P. 47\)](#)]

View Client をアップグレードします。[[View Client のアップグレード \(P. 48\)](#)] および [[View Local Mode Client のアップグレード \(P. 49\)](#)] を参照してください。

View Composer デスクトップ プールのアップグレード

VMware View のアップグレードの最終段階には、その一環として View Composer デスクトップ プールのアップグレードが含まれます。

View Composer で作成されたプールをアップグレードする場合は、親仮想マシンで View Agent をアップグレードした後で取得したスナップショットを使用する必要があります。

注意 仮想ハードウェア バージョン 8 へのアップグレードなど、vSphere 5 に含まれる仮想ハードウェア バージョンもアップグレードしている場合、アップグレードされた親仮想マシンのスナップショットが、リンク クローン プールにある残りの仮想マシンの仮想ハードウェア バージョンのアップグレードに使用されます。この方法によるアップグレードでは、上位のバージョンへの仮想ハードウェア バージョンのアップグレードがサポートされます。しかし、現在のバージョンよりも低いハードウェア バージョンにリンク クローンを再構成することはできません。たとえば、ハードウェア バージョン 7 の親の仮想マシンにハードウェア バージョン 8 のクローンを再構成することはできません。

View Agent 4.0.x は、View Composer 2.5 以降とは互換性がありません。そのため、View 4.5 以降のリリースに固有の機能を使用するプールを作成、再構成、または更新するときは、View 4.0.x のマスタ イメージまたはスナップショットは使用できません。このような View 4.5 以降の機能としては、システム廃棄可能ディスク (SDD) の使用、Sysprep スタマイズ仕様の使用、以前にアーカイブした通常のディスクの既存デスクトップへの接続などがあります。

開始する前に

- 親仮想マシンのエージェントをアップグレードする場合は、[「レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード \(P. 23\)」](#)。
- 親仮想マシンのエージェントをアップグレードする場合は、[「別のマシンでの View Composer 2.7 および vCenter Server 5.0 へのアップグレード \(P. 34\)」](#) または [「View Composer のみのアップグレード \(P. 29\)」](#)。
- ESX/ESXi ホストおよび仮想マシンもアップグレードする場合は、ついでに説明した手順を実行します。[第 6 章 「ESX/ESXi ホストおよび仮想マシンのアップグレード \(P. 41\)」](#)。

View 5.0 で提供される 3D レンダリング機能を使用するには、Windows 7 仮想マシンで仮想ハードウェアをバージョン 8 にアップグレードする必要があります。

- 親仮想マシンのエージェントをアップグレードする場合は、[「View Agent のアップグレード \(P. 45\)」](#) で説明した手順を実行します。
- デスクトップ プールの再作成および再構成によってストレージ アレイおよび ESX/ESXi ホストが埋め尽くされないように、保守期間を慎重に計画してください。

手順

- 1 アップグレードの準備作業で新規仮想マシンのプロビジョニングを無効にした場合は、再度プロビジョニングを有効にします。
- 2 Windows 7 デスクトップで構成されるプールの場合、View 5.0 で提供される Windows 7 3D レンダリング機能を使用するには、プールを編集し、次の設定を構成します。
 - PCoIP 表示プロトコルを使用するようにプールを設定します。
 - [Allow users to choose protocol (ユーザーがプロトコルを選択できるようにする)] を [No (いいえ)] に設定します。
 - [Windows 7 3D Rendering (Windows 7 3D レンダリング)] 機能をオンにします。

この機能は、vSphere 5 で提供される、仮想ハードウェア バージョン 8 を使用する Windows 7 デスクトップで使用できます。

- 3 親仮想マシンのアップグレード後に作成したスナップショットを使用して、デスクトップ プールを再作成または再構築します。

オプション	アクション
View 4.0.x プール	フローティング デスクトップ プールの場合、プールから仮想デスクトップを削除し、デスクトップ プールを再作成します。専用プールの場合、デスクトップ プールを再構成します。
View 4.5.x および 4.6.x プール	フローティング プールと専用プールの両方で、デスクトップ プールを再構成します。

- 4 アップグレードの準備作業でプールの [ログオフ時に OS ディスクを更新] 設定を [更新しない] に変更した場合は、適切な更新ポリシーに合わせて設定を元に戻します。
- 5 いずれかのデスクトップ プールについて更新または再構成の操作をキャンセルした場合は、再度作業をスケジュールします。

次に進む前に

View Client をアップグレードします。[「View Client のアップグレード \(P. 48\)」](#) および [「View Local Mode Client のアップグレード \(P. 49\)」](#) を参照してください。

View Client のアップグレード

VMware View のアップグレードの最終段階では、View Client をアップグレードし、シンクライアント デバイスを使用する場合にそのファームウェアをアップグレードする作業を実行します。

注意 この手順では、リモート デスクトップを使用する View Client のアップグレード方法を説明します。View 4.5 または 4.6 Client with Local Mode、または View 4.0.x または Offline Client からアップグレードする場合は、[「View Local Mode Client のアップグレード \(P. 49\)」](#) または [「View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード \(P. 50\)」](#) を参照してください。

開始する前に

- View Connection Server、View Transfer Server、View Composer など、サーバ コンポーネントのアップグレード手順を完了します。[第 5 章「VMware View Server コンポーネントのアップグレード \(P. 23\)」](#) を参照してください。
- インストーラとアップグレードを実行する際に使用するホスト上に、管理権限を持つドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。
- サポートされているオペレーティングシステムがクライアントシステムで実行されていることを確認します。PCoIP 表示プロトコルを使用する予定の場合は、クライアントが追加ハードウェア要件を満たしていることを確認します。[「Windows ベースの View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティングシステム \(P. 16\)」](#)。

手順

- 1 エンドユーザーに、View 5.0 Client にアップグレードしてもらいます。

オプション	アクション
View Client	Windows用 View Client や View Client with Local Mode など、VMware の Web サイトでホストされている View Client インストーラについては、View Client をダウンロードしてエンドユーザーに送信するか、Web サイト上にポストして、エンドユーザーにインストーラをダウンロードして実行するように依頼します。 View Client によっては、Apple App Store や Android Market から最新バージョンの View Client を入手するようにエンドユーザーに指示する必要がある場合があります。
View Portal	Windows または Mac システムのエンドユーザーの場合、エンドユーザーが次回 View Portal に接続したとき、新しいクライアント インストーラをダウンロードして実行するように要求されることを通知します。 既存の View Client でスマートカードが必要であり、エンドユーザーが Internet Explorer を使用して View Portal に接続している場合は、View Portal でクライアントのバージョンが確認される前に、スマートカードの挿入を求められます。エンドユーザーは、スマートカードを挿入しても、[キャンセル] をクリックしてもかまいません。結果は同じです。View Portal はバージョンを確認し、新しいクライアント インストーラのダウンロードをエンドユーザーに求めます。 Linux システムのエンドユーザーの場合、View Portal では View デスクトップに接続できません。
シンクライアント	シンクライアントのファームウェアをアップグレードし、エンドユーザーのクライアント デバイスに新しい View Client をインストールします。シンクライアントおよびゼロクライアントは、VMware のパートナーから提供されます。

- 2 エンドユーザーが各自の View デスクトップにログインおよび接続できることを確認してもらってください。

次に進む前に

View または 4.0.x の Offline Desktop を使用しているエンドユーザーがいる場合は、これらのクライアントをアップグレードします。[「View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード \(P. 50\)」](#) を参照してください。エンドユーザーが View 4.5.x または 4.5.x Client with Local Mode を使用している場合は、それらのクライアントをアップグレードします。[「View Local Mode Client のアップグレード \(P. 49\)」](#) を参照してください。

View Local Mode Client のアップグレード

View 4.5.x または 4.6.x Client with Local Mode のアップグレードは、Windows 用 View Client のアップグレードとよく似ています。クライアントシステムで新規インストールを実行します。

注意 この手順では、View 4.5.x または 4.6.x Client with Local Mode からのアップグレード方法を説明します。View 4.0.x Offline Client からアップグレードする場合は、[「View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード \(P. 50\)」](#) を参照してください。

開始する前に

- インストーラを実行してアップグレードを行うために使用するクライアントシステム上に、管理者権限のあるローカルユーザー アカウントまたは管理者権限のあるドメインユーザー アカウントがあることを確認します。
- クライアントコンピュータのオペレーティングシステムがサポートされていること、およびエンドユーザーがダウンロードしてローカルで実行する予定の View デスクトップにクライアントシステムが対応できることを確認します。詳細については、[「Windows ベースの View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティングシステム \(P. 16\)」](#) および [「ローカルモードデスクトップのハードウェア要件 \(P. 16\)」](#) を参照してください。

- ローカル デスクトップオペレーティングシステムにインストールされている View Agent ソフトウェアのアップグレード戦略を決定します。1つの戦略は、エンドユーザーがローカル デスクトップにチェックインしてもらい、データセンターの仮想マシンで View Agent をアップグレードする方法です。もう1つの戦略は、クライアントシステムのローカル View デスクトップ内で View Agent をアップグレードする方法です。ソフトウェアアップグレードで通常使用している他社製ツールを使用できます。

手順

- 1 データセンターの仮想マシンで View Agent をアップグレードする場合は、エンドユーザーにローカル モード デスクトップをチェックインしてもらいます。
- 2 クライアントシステムで、View 5.0 Client with Local Mode インストーラを実行します。
 エンドユーザーにコンピュータに必要な管理者権限がある場合、エンドユーザーはいくつかの方法でインストーラを入手できます。
 - VMware の Web サイトからインストーラをダウンロードし、それをエンドユーザーに送ります。
 - インストーラを会社の Web サイトに置き、エンドユーザーにダウンロードしてもらいます。
 - エンドユーザーに View Portal の URL を伝え、View Portal からインストーラをダウンロードしてもらいます。
- 3 エンドユーザーに、ローカル View デスクトップにログインおよび接続できることを確認してもらいます。

次に進む前に

エンドユーザーがローカル モード デスクトップにチェックインして、View Agent ソフトウェアをデータセンターでアップグレードする場合は、View Agent のアップグレードが完了した後は、アップグレードされた新しい View デスクトップをローカル システムにチェックアウトするようにエンドユーザーに伝えてください。

ローカル デスクトップ内の View Agent ソフトウェアがまだ View Agent 5.0 にアップグレードされていない場合は、データセンターの仮想マシンまたはローカル クライアントシステムのどちらかで View Agent をアップグレードしてください。

View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード

VMware View 4.0.x の試験的機能であった Offline Desktop は、View 5.0 の完全にサポートされている View Client with Local Mode にアップグレードできます。

注意 この手順では、View 4.0.x View Offline Client からのアップグレード方法を説明します。View 4.5.x または 4.6.x Client with Local Mode からアップグレードする場合は、[「View Local Mode Client のアップグレード \(P. 49\)」](#)を参照してください。

開始する前に

- インストーラを実行してアップグレードを行うために使用するクライアントシステム上に、管理者権限のあるローカル ユーザー アカウントまたは管理者権限のあるドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。
- クライアント コンピュータのオペレーティングシステムがサポートされていること、およびエンドユーザーがダウンロードしてローカルで実行する予定の View デスクトップにクライアントシステムが対応できることを確認します。[「Windows ベースの View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティングシステム \(P. 16\)」](#) および [「ローカル モード デスクトップのハードウェア要件 \(P. 16\)」](#)を参照してください。

手順

- 1 エンドユーザーに、View 4.0.x オフライン デスクトップをチェックインしてもらいます。

- 2 エンドユーザーに、オフライン デスクトップを構成するファイルが含まれるフォルダを削除してもらいます。

デスクトップオペレーティングシステム	チェックアウトディレクトリ
Windows 7 および Windows Vista のデフォルトディレクトリ	C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Local\VMware\VDM\Offline Desktops\<プール表示名>
Windows XP のデフォルトディレクトリ	C:\Documents and Settings\<ユーザー名>\Local Settings\Application Data\VMware\VDM\Offline Desktops\<プール表示名>

- 3 アップグレードする必要があるすべてのコンポーネントをアップグレードします。

View Connection Server、View Transfer Server、View Composer、vCenter Server、ESX/ESXi ホスト、仮想マシン、仮想マシンの VMware Tools、仮想マシンの View Agent などがあります。

- 4 View Transfer Server をまだインストールおよび構成していない場合は、『VMware View 5.0 インストール ガイド』の説明に従って、View Transfer Server インスタンスをインストールおよび構成してください。

VMware View 4.5 以降のバージョンでは、View Transfer Server コンポーネントは、チェックイン、チェックアウト、レプリケーション、システム イメージ プロビジョニングの各操作の間に、ローカル クライアント デバイスとデータセンターの間でデータを転送します。

- 5 クライアントシステムで、View 5.0 Client with Local Mode インストーラを実行します。

エンドユーザーにコンピュータで必要な管理者権限がある場合、エンドユーザーはいくつかの方法でインストーラを入手できます。

- VMware の Web サイトからインストーラをダウンロードし、それをエンドユーザーに送ります。
- インストーラを会社の Web サイトに置き、エンドユーザーにダウンロードしてもらいます。
- エンドユーザーに View Portal の URL を伝え、View Portal からインストーラをダウンロードしてもらいます。

- 6 エンドユーザーに、アップグレード後の View デスクトップにログインおよび接続できることを確認してもらいます。

VMware View パッチの適用

パッチ リリースには、View Connection Server、View Composer、View Agent、および各種の View Client などの VMware View コンポーネントのインストーラ ファイルが含まれます。適用する必要があるパッチ コンポーネントは、View の展開で必要されるバグ修正によって異なります。

必要とされるバグ修正によっては、必要に応じて次の順番で VMware View パッチをインストールする必要がある場合があります。

- 1 View Connection Server
- 2 View Composer
- 3 View Agent
- 4 View Client

この章では次のトピックについて説明します。

- [View Connection Server へのパッチの適用 \(P. 53\)](#)
- [View Composer へのパッチの適用 \(P. 54\)](#)
- [View Agent へのパッチの適用 \(P. 55\)](#)
- [View Client へのパッチの適用 \(P. 56\)](#)

View Connection Server へのパッチの適用

パッチを適用する場合には、現在のバージョンをアンインストールしてから新しいパッチのバージョンをインストールします。

開始する前に

- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。この処理に必要な時間は、グループ内の View Connection Server インスタンスの数によって決まります。1 インスタンスにつき 15 ～ 30 分を予定してください。
- パッチ インストーラの実行に使用するホスト上に管理者権限のあるドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。

手順

- 1 View Connection Server が仮想マシンにインストールされている場合は、その仮想マシンのスナップショットを作成します。

スナップショットの作成手順については、vSphere Client のオンライン ヘルプを参照してください。

- 2 グループ内のすべての View Connection Server インスタンス上で、**VMware View Connection Server サービス** と呼ばれるサービスを停止します。
 同じグループ内の他のインスタンスが実行されている間に View Connection Server インスタンスをアップグレードすると、View LDAP データベースが破損するおそれがあります。VMwareVDMDS サービスは停止しないでください。
- 3 複製されたグループにある View Connection Server インスタンスの 1 つで、VMware View Connection Server のパッチ バージョン用のインストーラ ファイルをダウンロードします。
 このダウンロードに関する手順については、VMware の担当者までお問い合わせください。
- 4 Windows の [プログラムの追加と削除] ユーティリティを使用して、以前にインストールした View Connection Server を削除します。ただし、[Adam Instance VMwareVDMDS] は削除しないでください。
- 5 VMware View Connection Server のパッチ リリース用にダウンロードしたインストーラを実行します。
 インストーラの実行については、『VMware View インストール ガイド』を参照してください。
- 6 インストール ウィザードのプロンプトに従って操作し、既存の ADAM インスタンスを使用してインストールを続行するかどうか確認を求められたら、[OK] をクリックします。
- 7 インストーラ ウィザードが閉じた後、VMware View Connection Server サービスが再起動したことを確認します。
- 8 再度 View Connection Server サービスを停止します。
- 9 複製されたグループ内のその他の View Connection Server インスタンスについて、[手順 3](#) から [手順 8](#) までを繰り返します。
- 10 グループ内のすべてのサーバがアップグレードされた後、すべてのサーバ上で View Connection Server サービスを開始します。
- 11 この手順を View セキュリティ サーバで繰り返します。

次に進む前に

1 つ以上の View Connection Server インスタンスでパッチの適用が失敗する場合は、[「View Connection Server をスナップショットに戻した後のレプリカ グループの作成 \(P. 26\)」](#)を参照してください。

必要に応じて、View Composer または View Agent にパッチを適用します。

View Composer へのパッチの適用

パッチを適用する場合には、現在のバージョンをアンインストールしてから新しいパッチのバージョンをインストールします。パッチ リリースによっては、View Composer 用のパッチが含まれていない場合もあります。

開始する前に

- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。View Composer 1 インスタンスにつき 15 ~ 30 分を予定してください。
- パッチ インストーラの実行に使用するホスト上に管理者権限のあるドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。
- View Composer が仮想マシンにインストールされている場合は、その仮想マシンのスナップショットを作成します。
 スナップショットの作成手順については、vSphere Client のオンライン ヘルプを参照してください。
- vCenter Server データベースと View Composer データベースをバックアップします。
 データベースのバックアップ方法については、データベース ベンダーから提供されるマニュアルを参照してください。
- すべてのリンク クローン デスクトップ プールについて、新しい仮想マシンのプロビジョニングを無効にします。
- いずれかのデスクトップ プールに更新または再構成の操作のスケジュールが設定されている場合は、それらの操作をキャンセルします。

手順

- 1 View Composer をホストする仮想マシンで、VMware View Composer のパッチ バージョンのインストーラ ファイルをダウンロードします。

このダウンロードに関する手順については、VMware の担当者までお問い合わせください。
- 2 Windows の [プログラムの追加と削除] ユーティリティを使用して、前にインストールした View Composer を削除します。
- 3 VMware View Composer のパッチ リリース用にダウンロードしたインストーラを実行します。
- 4 インストーラ ウィザードが閉じた後、VMware View Composer サービスが再起動することを確認します。
- 5 必要な場合は、親仮想マシン上で View Agent のパッチを適用し、テスト用のデスクトップ プールを作成します。
 - a Windows の [プログラムの追加と削除] ユーティリティを使用して、前にインストールした View Agent を削除します。
 - b 親仮想マシンで VMware View Agent のパッチ インストーラをダウンロードして実行します。

このダウンロードに関する手順については、VMware の担当者までお問い合わせください。
 - c この仮想マシンから、小さなリンク クローン デスクトップ プールを作成します。
 - d 作成したデスクトップ プールから仮想デスクトップをテストして、あらゆる使用方法のシナリオが正常に機能することを確認します。

たとえば、1 つの仮想デスクトップを含むデスクトップ プールを作成し、View Client を使用してそのデスクトップにログインできることを確認します。

View Agent インストーラを実行してデスクトップ プールを作成する手順については、『VMware View 管理者ガイド』(View Administrator の [ヘルプ] ボタンをクリックして表示) を参照してください。
 - e テスト デスクトップ プール内の仮想デスクトップが期待どおりに機能することを確認します。

次に進む前に

必要に応じて、View Agent にパッチを適用します。

View Agent へのパッチの適用

パッチを適用する場合には、現在のバージョンをアンインストールしてから新しいパッチ バージョンをインストールします。

次の手順は、リンク クローン デスクトップ プールについては親仮想マシンで、完全なクローン プールでは各仮想マシン デスクトップで、1 つの View デスクトップのみを含むプールについては個々の View デスクトップ仮想マシンで、実行する必要があります。

開始する前に

パッチ インストーラの実行に使用するホスト上に管理者権限のあるドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。

手順

- 1 すべての親仮想マシン、完全なクローンのテンプレートに使用される仮想マシン、プールにある完全なクローン、手動で追加された個々の仮想マシンで、VMware View Agent のパッチ バージョンのインストーラ ファイルをダウンロードします。

このダウンロードに関する手順については、VMware の担当者までお問い合わせください。
- 2 Windows の [プログラム追加と削除] ユーティリティを使用して、前にインストールした View Agent を削除します。
- 3 VMware View Agent のパッチ リリース用にダウンロードしたインストーラを実行します。

View Agent インストーラを実行する手順については、『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。

- 4 View Composer へのパッチ適用の準備作業で新規仮想マシンのプロビジョニングを無効にした場合は、再度プロビジョニングを有効にします。
- 5 リンク クローン デスクトップ プールを作成するために使用される親仮想マシンについては、仮想マシンのスナップショットを取得します。
スナップショットの作成手順については、vSphere Client のオンライン ヘルプを参照してください。
- 6 リンク クローン デスクトップ プールでは、作成したスナップショットを使用してデスクトップ プールを再構成します。
- 7 パッチが適用された View デスクトップ プールに View Client でログインできることを確認します。
- 8 いずれかのリンク クローン デスクトップ プールについて更新または再構成の操作をキャンセルした場合は、再度作業をスケジュールします。

次に進む前に

必要に応じて 1 つまたは複数の View Client にパッチを適用します。

View Client へのパッチの適用

パッチを適用する場合には、現在のバージョンをアンインストールしてから新しいパッチ バージョンをインストールします。

手順

- 1 各クライアントシステムで、VMware View Client のパッチ バージョンのインストーラ ファイルをダウンロードします。
このダウンロードに関する手順については、VMware の担当者までお問い合わせください。いくつかの View Client については、Android Market または Apple App Store からパッチ リリースを入手できる場合があります。
- 2 VMware View クライアントの現在のバージョンをデバイスから削除します。
各デバイス特有の方法でアプリケーションを削除してください。
- 3 必要な場合には、View Client のパッチ リリース用にダウンロードしたインストーラを実行します。
Apple App Store や Android Market からパッチを入手した場合には、そのアプリケーションは、通常ダウンロードしたときにインストールされるため、インストーラを実行する必要はありません。
- 4 パッチが適用された View デスクトップ プールに新しくパッチが適用された View Client でログインできることを確認します。

VMware View 環境での vSphere コンポーネントの個別アップグレード

9

VMware View コンポーネントとは別に vSphere コンポーネントを個別にアップグレードする場合、一部の View データをバックアップし、一部の View ソフトウェアを再インストールする必要があります。

VMware View コンポーネントと vSphere コンポーネントの統合アップグレードを実行する代わりに、最初にすべての View コンポーネントをアップグレードしてから vSphere コンポーネントをアップグレードしたり、その逆の順序でアップグレードすることができます。vSphere の新しいバージョンまたはアップデートがリリースされたときに、vSphere コンポーネントのみをアップグレードすることもできます。

View コンポーネントとは別に vSphere コンポーネントを個別にアップグレードする場合、次の追加タスクを実行する必要があります。

- 1 vCenter Server をアップグレードする前に、vCenter Server データベースと View Composer データベースをバックアップします。
- 2 vCenter Server をアップグレードする前に、**vdmexport.exe** ユーティリティを使用して、View Connection Server インスタンスから View LDAP データベースをバックアップします。
方法については、『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。レプリカ グループ内に View Connection Server インスタンスが複数存在する場合は、1 つのインスタンスからデータをエクスポートするだけでかまいません。
- 3 View Composer を使用する場合は、特定の vCenter Server インスタンスで管理されているすべての ESX/ESXi ホストをアップグレードした後、そのホストで View Composer サービスを再起動します。
- 4 View デスクトップとして使用している仮想マシンで VMware Tools をアップグレードした後、View Agent を再インストールします。

View Agent を再インストールすることにより、仮想マシン内のドライバと他の View コンポーネントとの互換性が保たれます。

View Agent インストーラを実行する手順については、『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。

インデックス

A

aspnet_regiis コマンド 34, 36, 38

C

CPU 要件、ローカル モード デスクトップ 16

D

databaseupgrade、結果コード 32
DSN (ドメイン サーバ名)、View Composer 36, 38

E

ESX/ESXi ホストのアップグレード手順 41
ESX ホストのアップグレード手順 41, 42

F

Firefox、サポートされるバージョン 15, 18

G

GPO テンプレート 23

I

Internet Explorer、サポートされるバージョン 15,
18

L

LDAP 19
LDAP のアップグレード 23

M

Microsoft SQL Server データベース 14

O

Offline Desktop (現在の Local Mode) 50
Oracle データベース 14

P

PCoIP セキュリティ ゲートウェイ 12

R

RSA キー コンテナ 34, 36, 38

S

SQL Server データベース 14
SSL、証明書フォルダ 38
SSL 証明書のバックアップ 20
SviConfig ユーティリティ 31, 32

SviKeyContainer キー コンテナ 34

V

vCenter Server のアップグレード、アップグレードの
準備作業 20

vCenter Server 用データ移行ツール 36

vCenter Server、アップグレードの準備作業 57

vdmadmin.exe ユーティリティ 25

vdmexport.exe ユーティリティ 19, 23

View Administrator、要件 15

View Agent

アップグレード手順 45, 57

インストール要件 18

パッチの適用 55

View Client with Local Mode、サポートされるオペ
レーティング システム 16

View Composer の vSphere モード 41, 42

View Composer のアップグレード

SviConfig でのデータベース アップグレード 31

vCenter Server バージョンとの互換性 14

新しいマシンへの移行 36, 38

アップグレード手順 29

アップグレードの準備作業 20, 34

オペレーティング システムの要件 14

データベースのアップグレードが完了しない 33

ポート変更 29, 34, 38

要件の概要 14

View Composer のインストール、要件の概要 14

View Composer のポート変更 29, 34, 36, 38

View Connection Server

新しいマシンへの移行 25

アップグレード手順 23

アップグレードの準備作業 19

アップグレード要件 12

スナップショットに戻す 26

ハードウェア要件 11

パッチの適用 53

View Connection Server のインストール

仮想化ソフトウェア要件 13

サポートされるオペレーティング システム 12

要件の概要 11

View LDAP のアップグレード 23

View Portal、ブラウザの要件 18

View Transfer Server

新しいマシンへの移行 28

アップグレード手順 28

- View Transfer Server のアップグレード、アップグレード手順 27
- View Transfer Server のインストール
 - 仮想マシンの要件 13
 - サポートされるオペレーティング システム 14
 - 要件の概要 13
- View Client
 - アップグレード 45, 48–50
 - サポートされるオペレーティング システム 16
 - パッチの適用 56
- View Composer
 - SviConfig でのデータベース アップグレード 31
 - vSphere モード 41, 42
 - アップグレード手順 34
 - データベース要件 14
 - パッチの適用 54
 - ポート変更 36
- View LDAP 19
- View Transfer Server の構成、インスタンスの追加 50
- View コンポーネントの互換性マトリックス 7
- VirtualCenter のアップグレード手順 29, 34, 36, 38
- VMotion 41, 42
- VMware Infrastructure 3 5
- VMware View アップグレードのシステム要件 11
- VMware Tools、アップグレード手順 41, 42, 57
- VMwareVDMDS サービス 23
- vSphere、コンポーネントの個別アップグレード 57
- vSphere Update Manager 41, 42
- vSphere データ移行ツール 34

W

- Web ブラウザの要件 15, 18
- Windows 7 要件、ローカル モード デスクトップ 16
- Windows Terminal Server 45

あ

- アップグレードの準備
 - vCenter Server 20
 - View Composer 20
 - View Connection Server 19
 - VMware View のコンポーネント 19
- アップグレードのチェック リスト 9

か

- 下位互換性 7
- 仮想ハードウェアのアップグレード手順 41, 42
- 仮想マシン、アップグレード 41, 42

く

- クラスタのアップグレード 41, 42

け

- 結果コード、databaseupgrade 操作 32

さ

- サービス
 - VMware View Connection Server 23
 - VMwareVDMDS 23

し

- 上位互換性 7
- シンクライアント 45, 48
- シンクライアントのファームウェア アップグレード 45, 48

せ

- セキュリティ サーバ
 - アップグレード 23
 - オペレーティング システムの要件 12

つ

- 通常のデスクトップ プール 47

て

- ディスプレイ要件、ローカル モード デスクトップ 16
- データベースのアップグレード
 - sviconfig が成功しない 33
 - View Composer の SviConfig 31
- データベースの互換性 20
- データベースのバックアップ 20
- テクニカル サポート、VMware 5
- デスクトップ、ローカル 49, 50
- デスクトップ プールのアップグレード、フル クローンとリンク クローン プール 45
- デスクトップ プールの管理、プールのアップグレード 47

は

- ハードウェア要件
 - View Connection Server 11
 - ローカル モード デスクトップ 16
- パッチ リリース 23, 53

ふ

- 物理 PC 45
- ブラウザの要件 15, 18
- ブレード PC 45

ほ

- 保守期間 23

め

- メモリ要件、ローカル モード デスクトップ 16

ゆ

- ユーティリティ
 - sviconfig 31, 32
 - vdmadm.exe 25
 - vdmexport.exe 19, 23

よ

読み取り専用デスクトップ プール 47

ら

ライセンス要件 12

り

リンク クローン デスクトップの管理、アップグレード
手順 45

ろ

ローカル デスクトップのアップグレード 49, 50

ローカル デスクトップの構成、ハードウェア要件 16

ロード バランサ 19

